

2.4. 居住継続に対する意識

(1) 居住継続に対する意識（質問3）

- 現在居住している集落への今後の居住意向について把握するため、下記の項目についての意識をたずね、4つの選択肢について選んでいただいた。
- 「今後とも住み続けたい」
- 「状況によっては離れざるを得ない」
- 「近い将来、子供たちのところなど集落を離れるつもりである」
- 「その他」

○居住継続に対する意識

- ・「今後とも住み続けたい」と回答した集落が約7割（224集落）を占める。一方で、「状況によっては離れざるを得ない」、「離れるつもり」との回答が、合わせて約3割（90集落）を占める。

表 集落の居住継続に対する意識

回答項目	居住意向	割合(%)
今後とも住み続けたい	224	70.9%
状況によっては離れざるを得ない	79	25.0%
近い将来、子供たちのところなど、集落を離れるつもりである	11	3.5%
その他(具体的に:)	2	0.6%
合計	316	100%

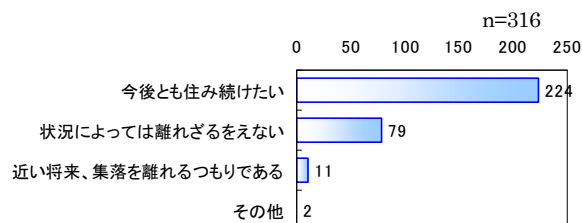


図 集落の居住継続に対する意識

○居住継続に対する意識と世帯規模の関係

- ・世帯規模が小さくなるほど、「集落を離れざるを得ない」、「離れるつもりである」との回答が多くなっている。

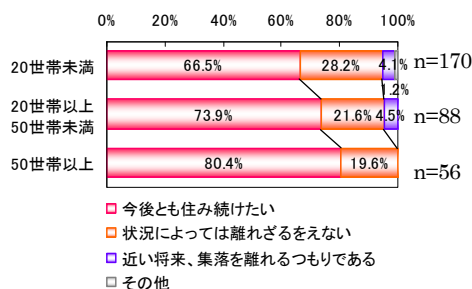


図 集落の居住継続に対する意識と集落の世帯規模との関係

○居住継続に対する意識と高齢化率の関係

- ・ 高齢化率が高くなるほど、「集落を離れざるを得ない」、「離れるつもりである」との回答が多くなっている。

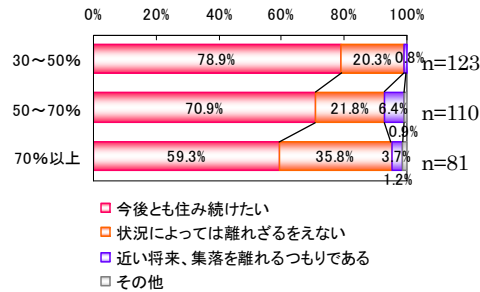


図 集落の居住継続に対する意識と集落の高齢化率との関係

○居住継続に対する意識と生活中心都市までの時間距離の関係

- ・ 居住継続意志と生活中心都市までの時間距離は関連性がみられなかった。

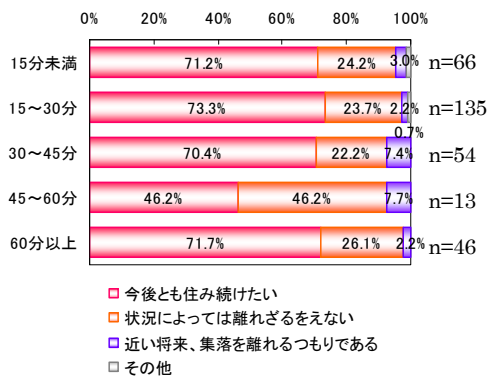


図 集落の居住継続に対する意識と生活中心都市までの時間距離との関係

○居住継続に対する意識と回答者の年齢区分の関係

- ・ 居住継続意志と回答者の年齢区分は関連性がみられなかった。

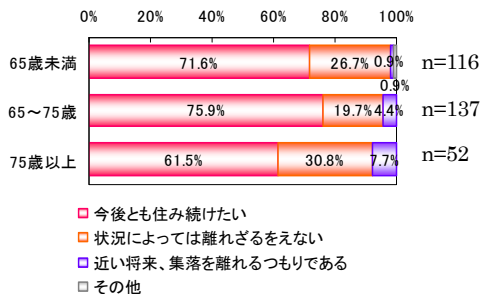


図 集落の居住継続に対する意識と回答者の年齢区分との関係

(2) 集落で今後居住を継続する上での不安（質問4）

- 居住を継続する上での不安について把握するため、下記項目に示す、今後居住を継続する上での不安の項目をあげ、「大いに不安」、「不安」、「やや不安」、「不安は感じない」に4段階の選択肢について選んでいただいた。
 - また、これらの項目のうち、特に不安に感じる上位3つの項目について選択していただき、不安の優先度について把握した。
- ①「農林作業」における不安
- 「鳥獣被害の増加」
 - 「山林・田畑の管理がままならなくなってきている」
- ②「集団活動（コミュニティ活動）」における不安
- 「地域行事の営みができない」
 - 「共同作業の営みができない」
 - 「隣近所のつきあいが減っている」
- ③「生活サービス」における不安
- 「医療施設が遠い（サービスを受けにくい）」
 - 「福祉施設が遠い（サービスを受けにくい）」
 - 「日用品・食料品の買い物が出来る店が遠い」
 - 「近くに働く場がない」
 - 「日常の移動手段がない」
 - 「郵便局や農協が近くにない」
- ④「災害発生時」における不安
- 「土砂崩れ、崖崩れ等の発生危険箇所の存在」
 - 「災害時の避難活動が困難になってきている」
 - 「災害による孤立」
- ⑤その他集落生活を営む上での不安
- その他集落生活における不安について自由に記述

①集落の農林作業における不安

○鳥獣被害の増加における不安

- ・「鳥獣被害が増加している」は、「大いに不安」、「不安」、「やや不安」との回答が合わせて、約9割を占めており、特に「大いに不安」との回答が約5割を占める。

表 鳥獣被害の増加における不安

質問項目		大いに不安	不安	やや不安	不安は感じない	計
鳥獣被害の増加	度数	151	41	61	31	284
	%	53.2%	14.4%	21.5%	10.9%	100%

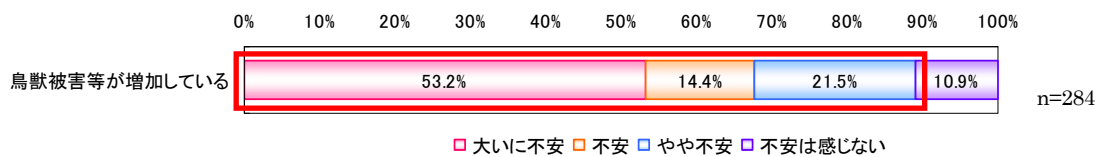


図 鳥獣被害の増加における不安

○山林、田畑の管理がままならなくなる不安

- ・「山林、田畑の管理がままならなくなっている」については、「おおいに不安」、「不安」、「やや不安」との回答が合わせて、約9割を占めている。

表 山林、田畑の管理がままならなくなる不安

質問項目		大いに不安	不安	やや不安	不安は感じない	計
山林、田畑の管理がままならなくなっている	度数	89	85	83	23	280
	%	31.8%	30.4%	29.6%	8.2%	100%

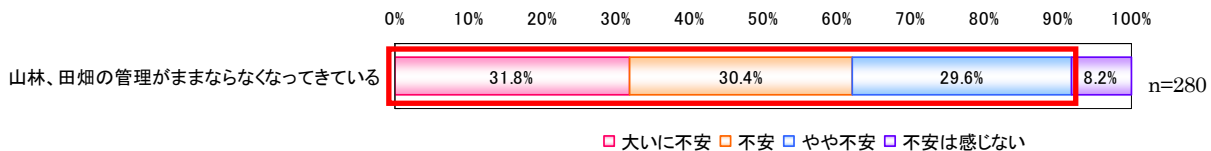
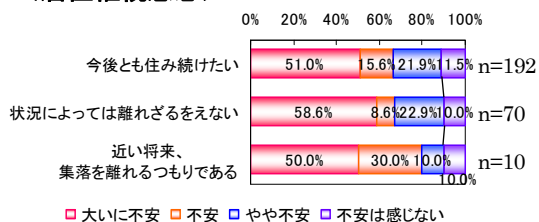


図 集落の農林作業における不安

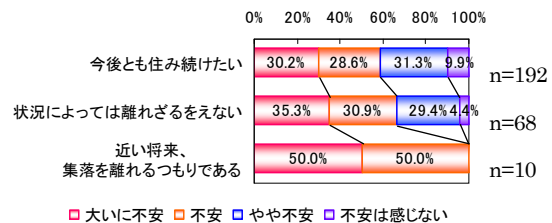
○集落の農林作業における不安と居住継続意志の関係

- ・農林作業による不安が大きくなると居住継続意志が弱くなっている。

<居住継続意志>



鳥獣被害の増加

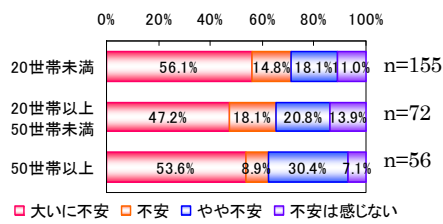


山林・田畑の管理がままならなくなっている

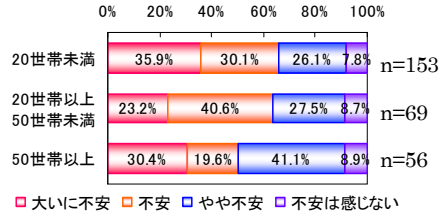
○集落の農林作業における不安と世帯規模との関係

・集落の農林作業における不安と世帯規模は関連性がみられなかった。

<世帯規模>



鳥獣被害の増加

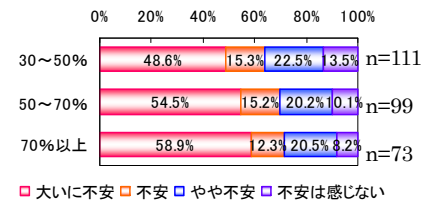


山林・田畑の管理がままならなくなっている

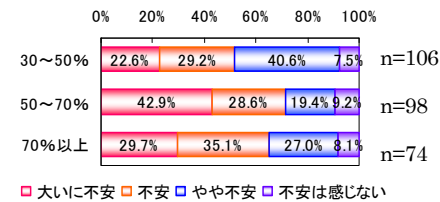
○集落の農林作業における不安と高齢化率の関係

・集落の農林作業における不安と高齢化率は関連性がみられなかった。

<高齢化率>



鳥獣被害の増加



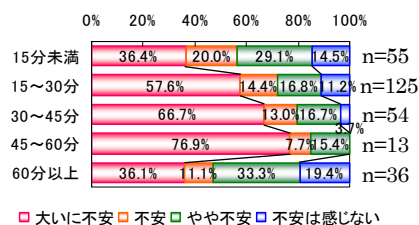
山林・田畑の管理がままならなくなっている

○集落の農林作業における不安と生活中心都市への時間距離との関係

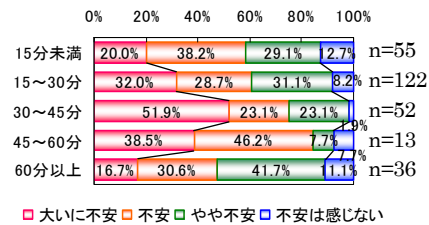
・「鳥獣被害の増加」、「山林・田畑の管理がままならなくなっている」については、生活中心都市までの時間距離が遠くなるほど、不安とする回答割合が高くなる傾向にある。

・60分以上に関しては、上記傾向からは外れるものの、これは離島にある集落が含まれることによるものと予想される。

<生活中心都市までの時間距離>



鳥獣被害の増加



山林・田畑の管理がままならなくなっている

②集落の集団活動（コミュニティ活動）における不安

○地域行事を営むことができなくなっている不安

- ・「地域行事を営むことができなくなっている」不安については、「大いに不安」、「不安」、「やや不安」との回答が、合わせて約9割を占める。

表 地域行事の営むことができなくなっている不安

質問項目		大いに不安	不安	やや不安	不安は感じない	計
地域行事を営むことができなくなっている	度数	56	76	112	37	281
	%	19.9%	27.0%	39.9%	13.2%	100%

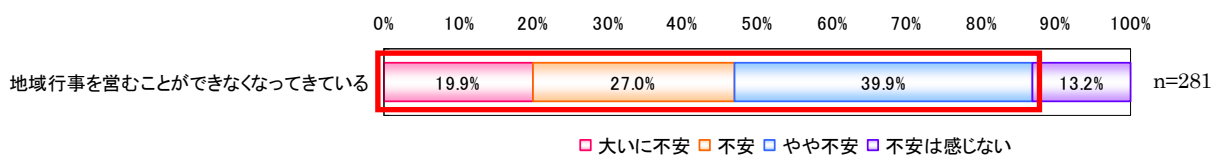


図 地域行事営むことが出来なくなっている不安

○共同作業の営みができなくなっている不安

- ・「共同作業を営むことができなくなっている」不安については、「大いに不安」、「不安」、「やや不安」との回答が、合わせて約9割を占める。

表 共同作業の営みができなくなっている不安

質問項目		大いに不安	不安	やや不安	不安は感じない	計
共同作業を営むことができなくなっている	度数	60	88	98	35	281
	%	21.4%	31.3%	34.9%	12.5%	100%

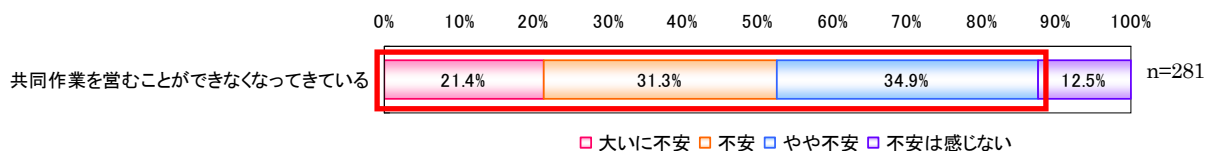


図 共同作業を営むことができなくなっている不安

○隣近所のつきあいが減ってきている不安

- ・「隣近所のつきあいが減ってきている」について、「大いに不安」、「不安」、「やや不安」との回答が合わせて約7割で、他の不安に比べて割合が低くなっている。

表 隣近所のつきあいが減ってきている不安

質問項目		大いに不安	不安	やや不安	不安は感じない	計
隣近所のつきあいが減ってきている	度数	25	57	110	82	274
	%	9.1%	20.8%	40.1%	29.9%	100%

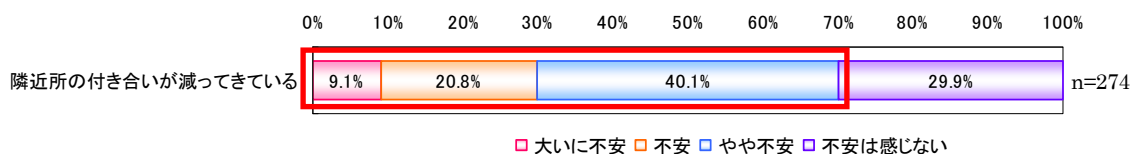
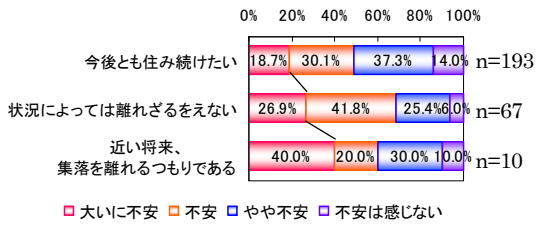
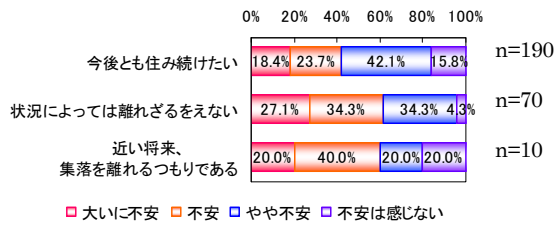


図 隣近所のつきあいが減ってきている不安

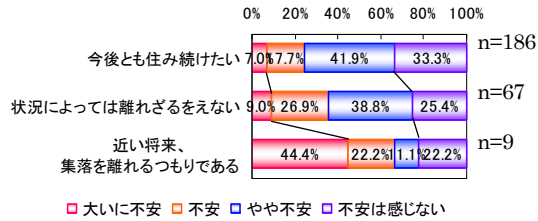
○集落の集団活動（コミュニティ活動）における不安と居住継続意志の関係

・居住継続意志が低い集落ほど、コミュニティ活動に関する不安が大きくなる傾向にある。

<居住継続意志>



地域行事の営みができない



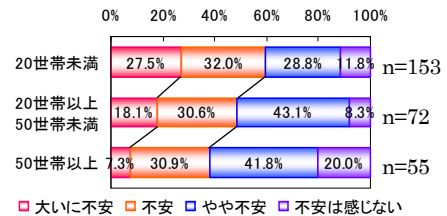
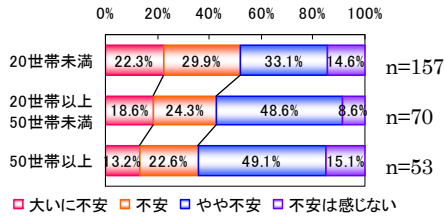
共同作業の営みができない

隣近所のつきあいが減っている

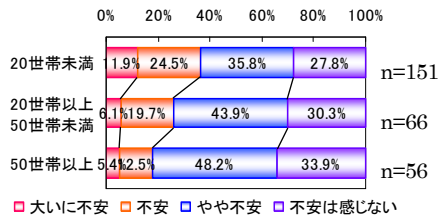
○集落の集団活動（コミュニティ活動）における不安と世帯規模の関係

・世帯規模が大きくなるほど、コミュニティ活動に関する不安が小さくなっている。

<世帯規模>



地域行事の営みができない



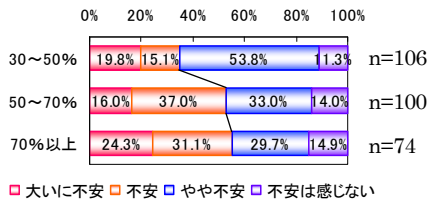
共同作業の営みができない

隣近所のつきあいが減っている

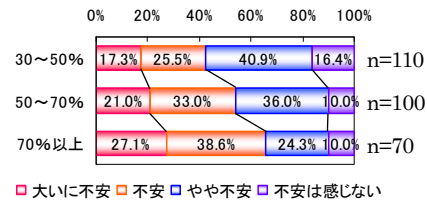
○集落の集団活動（コミュニティ活動）における不安と高齢化率の関係

・高齢化が高くなるほど、コミュニティ活動に関する不安が大きくなっている。

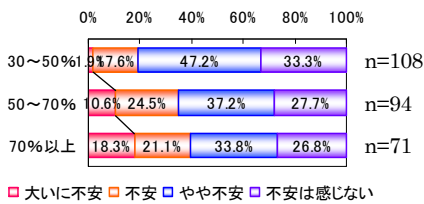
<高齢化率>



地域行事の営みができない



共同作業の営みができない

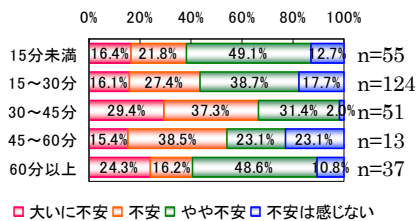


隣近所のつきあいが減っている

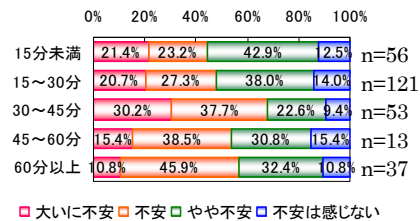
○集落の集団活動（コミュニティ活動）における不安と生活中心都市まで時間距離の関係

・集落の集団活動（コミュニティ活動）における不安と生活中心都市までの時間距離は関連性がみられなかった。

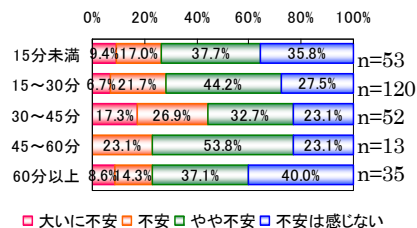
<生活中心都市までの時間距離>



地域行事の営みができない



共同作業の営みができない



隣近所のつきあいが減っている

③集落の生活サービスにおける不安

○医療施設が遠い（サービスを受けにくい）不安

- ・「医療施設が遠い」については、「大いに不安」、「不安」、「やや不安」との回答が、合わせて約8割を占め、特に「大いに不安」との回答が約4割を占める。

表 医療施設が遠い（サービスを受けにくい）不安

質問項目		大いに不安	不安	やや不安	不安は感じない	計
医療施設が遠い（サービスを受けにくい）	度数 %	107 36.9%	53 18.3%	84 29.0%	46 15.9%	290 100%

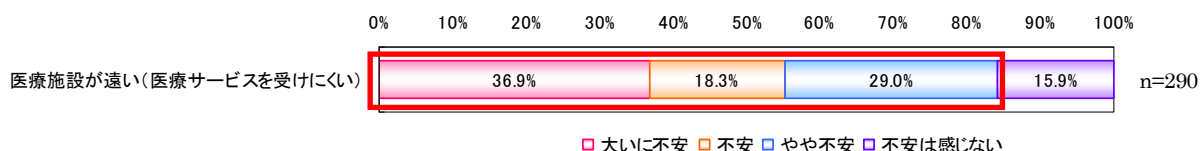


図 医療施設が遠い（サービスを受けにくい）不安

○福祉施設が遠い（サービスを受けにくい）不安

- ・「福祉施設が遠い」については、「大いに不安」、「不安」、「やや不安」との回答が、合わせて約8割を占める。

表 福祉施設が遠い（サービスを受けにくい）不安

質問項目		大いに不安	不安	やや不安	不安は感じない	計
福祉施設が遠い（サービスを受けにくい）	度数 %	66 23.7%	58 20.9%	106 38.1%	48 17.3%	278 100%

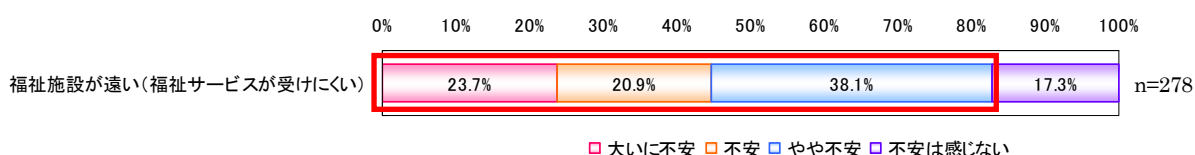


図 福祉施設が遠い（サービスを受けにくい）不安

○日用品・食料品の買い物が出来る店が遠い不安

- ・「日用品・食料品の買い物が出来る店が遠い」については、「大いに不安」、「不安」、「やや不安」との回答が、合わせて約8割を占める。

表 日用品・食料品の買い物が出来る店が遠い不安

質問項目		大いに不安	不安	やや不安	不安は感じない	計
日用品・食料品の買い物が出来る店が遠い	度数 %	72 25.4%	75 26.5%	77 27.2%	59 20.8%	283 100%

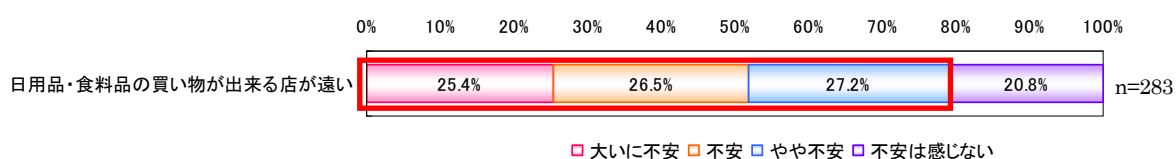


図 日用品・食料品の買い物が出来る店が遠い不安

○近くに働く場がなくなってきている不安

- ・「近くに働く場がなくなってきている」については、「大いに不安」、「不安」、「やや不安」との回答が、合わせて9割を占め、特に「大いに不安」との回答が約3割を占める。

表 近くに働く場がなくなってきている不安

質問項目		大いに不安	不安	やや不安	不安は感じない	計
近くに働く場が無くなってきている	度数	96	87	69	29	281
	%	34.2%	31.0%	24.6%	10.3%	100%

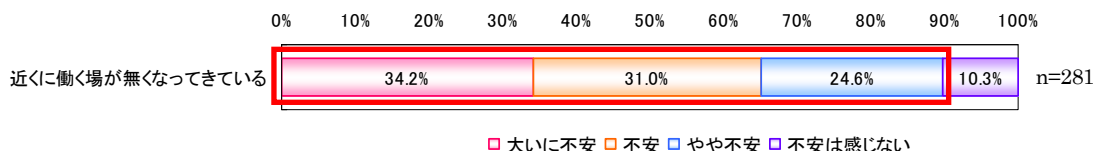


図 近くに働く場がなくなってきている不安

○日常の移動手段がなくなってきている不安

- ・「日常の移動手段がなくなってきている」については、「大いに不安」、「不安」、「やや不安」との回答が、合わせて約7割を占める。

表 日常の移動手段がない不安

質問項目		大いに不安	不安	やや不安	不安は感じない	計
日常の移動手段がなくなってきている	度数	39	60	105	66	270
	%	14.4%	22.2%	38.9%	24.4%	100%

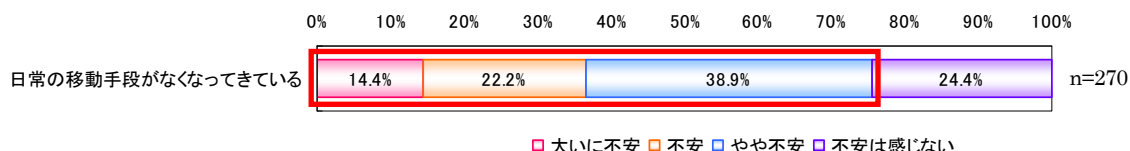


図 日常の移動手段がなくなってきている不安

○郵便局や農協が近くにない不安

- ・「郵便局や農協が近くになく、預貯金の出し入れが困難」については、「大いに不安」、「不安」、「やや不安」との回答が、合わせて約7割を占める。

表 郵便局や農協が近くにない不安

質問項目		大いに不安	不安	やや不安	不安は感じない	計
郵便局や農協が近くにない	度数	48	67	87	81	283
	%	17.0%	23.7%	30.7%	28.6%	100%

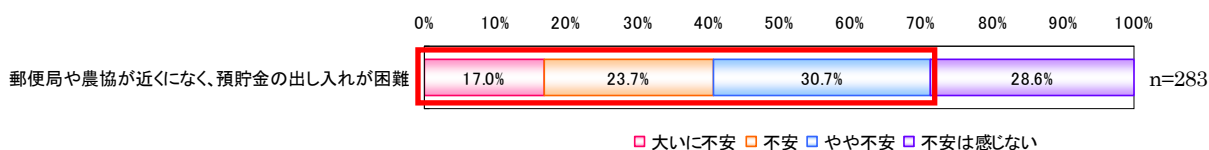
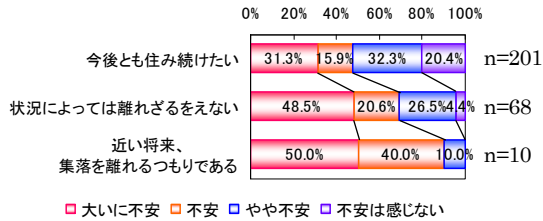


図 郵便局や農協が近くにない不安

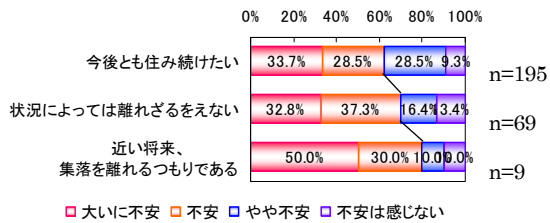
○集落の生活サービスにおける不安と継続居住意志の関係

- ・ 居住継続意志が低い集落ほど、生活サービスにおける不安が大きくなっている。
- ・ 「今後とも住み続けたい」と回答した集落ほど、「不安は感じない」との回答の割合が高くなっている。

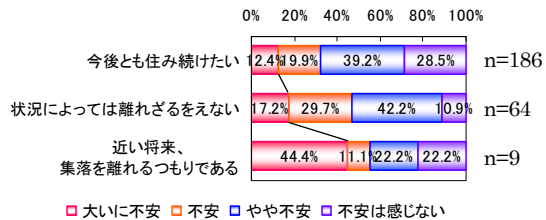
<居住継続意志>



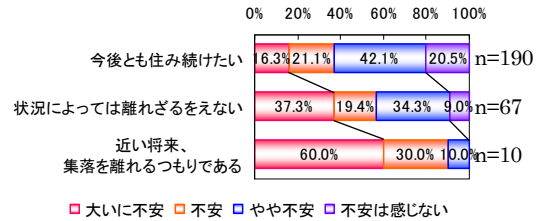
医療施設が遠い
(サービスを受けにくい)



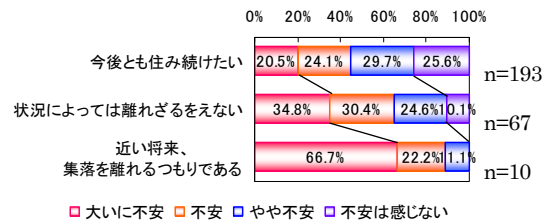
近くに働く場がない



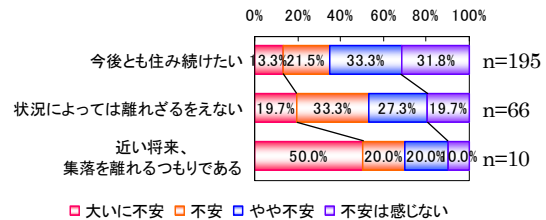
日常の移動手段がない



福祉施設が遠い
(サービスを受けにくい)



日用品・食料品の買い物が出来る店が遠い

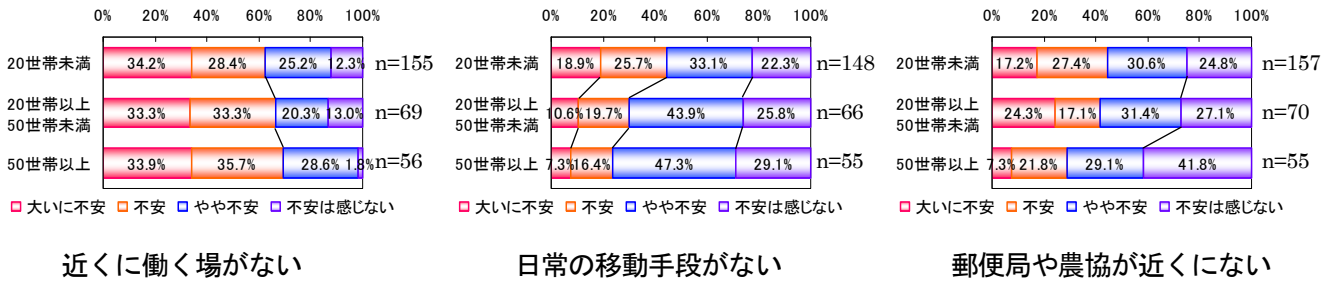
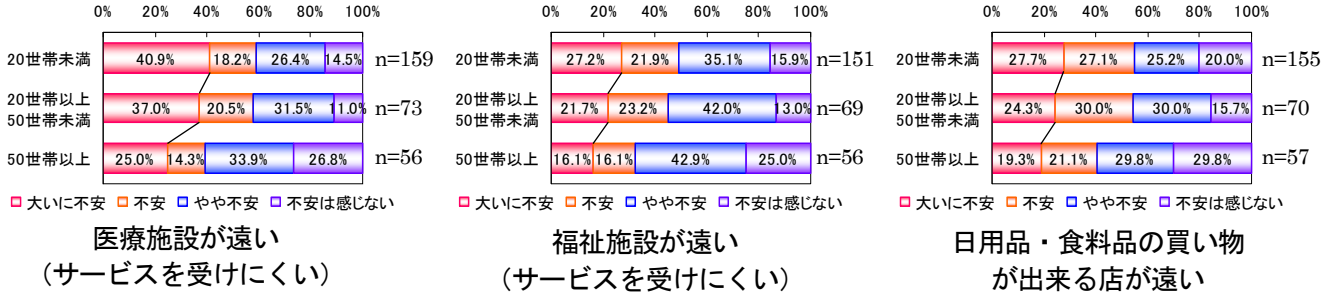


郵便局や農協が近くにない

○集落の生活サービスにおける不安と世帯規模の関係

・世帯規模が大きくなるほど、生活サービスに関する不安が小さいが、「近くに働く場がない」の傾向のみ、集落が大きくなるほど不安が大きくなっている。

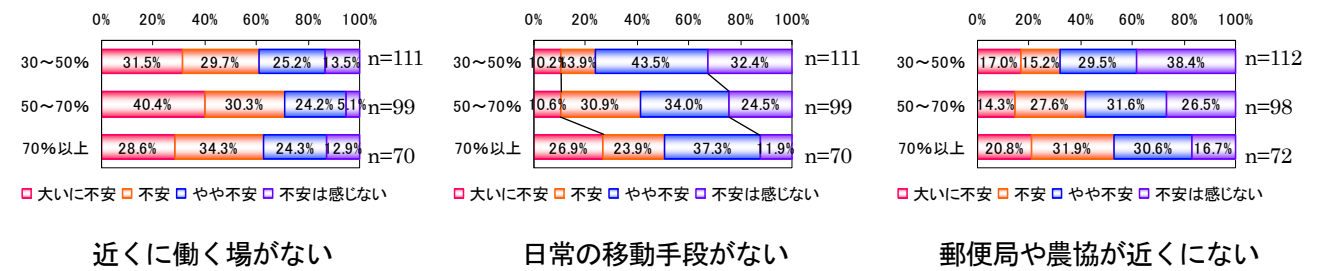
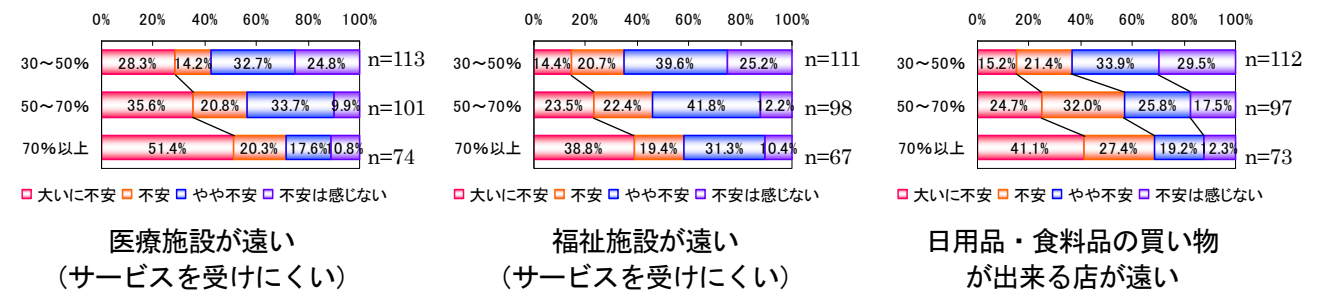
＜世帯規模＞



○集落の生活サービスにおける不安と高齢化率の関係

・高齢化率が高くなるほど、生活サービスに関する不安が大きいが、「近くに働く場がない」についてはその傾向が見られなかった。(高齢化率が高い集落住民は、働く場が関係しないためであると考えられる。)

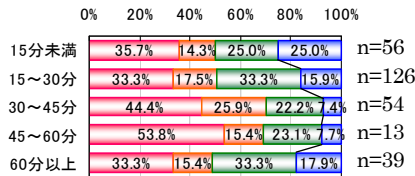
＜高齢化率＞



○集落の生活サービスにおける不安と生活中心都市までの時間距離との関係

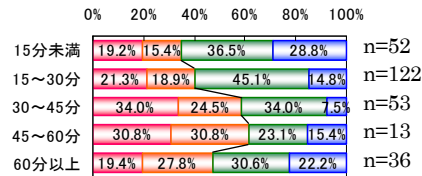
- ・生活サービスに関する不安全般にわたり、生活中心都市までの時間距離が遠くなるほど、不安とする回答割合が高くなる傾向にある。
- ・60分以上に関しては、上記傾向からは外れるものの、これは離島にある集落が含まれることによるものと予想される。

＜生活中心都市までの時間距離＞



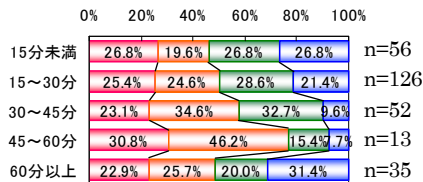
□ 大いに不安 □ 不安 □ やや不安 □ 不安は感じない

医療施設が遠い
(サービスを受けにくい)



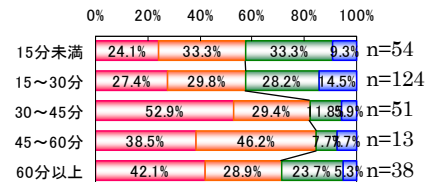
□ 大いに不安 □ 不安 □ やや不安 □ 不安は感じない

福祉施設が遠い
(サービスを受けにくい)



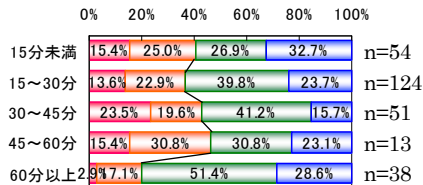
□ 大いに不安 □ 不安 □ やや不安 □ 不安は感じない

日用品・食料品の買い物が出来る店が遠い



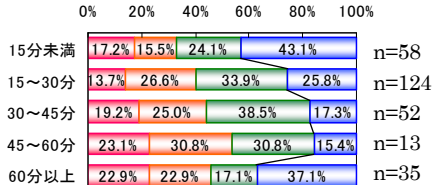
□ 大いに不安 □ 不安 □ やや不安 □ 不安は感じない

近くに働く場がない



□ 大いに不安 □ 不安 □ やや不安 □ 不安は感じない

日常の移動手段がない



□ 大いに不安 □ 不安 □ やや不安 □ 不安は感じない

郵便局や農協が近くにない

④集落の災害発生時における不安

○災害発生危険箇所の存在における不安

- ・「土砂崩れ、崖崩れ等の発生危険箇所の存在」についての不安は、「大いに不安」、「不安」、「やや不安」との回答が約7割を占める。

表 土砂崩れ、崖崩れ等の発生危険箇所の存在における不安

質問項目		大いに不安	不安	やや不安	不安は感じない	計
土砂崩れ、崖崩れ等の発生危険箇所の存在	度数	74	65	60	75	274
	%	27.0%	23.7%	21.9%	27.4%	100%

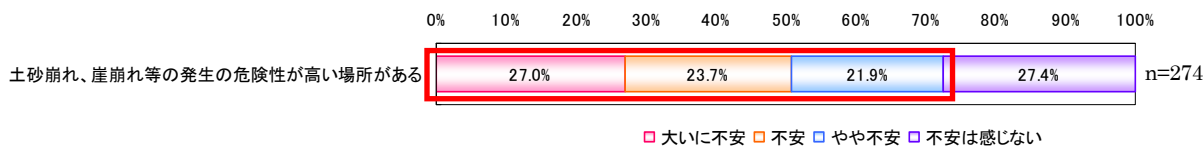


図 土砂崩れ、崖崩れ等の発生危険箇所の存在についての不安

○災害時の避難活動が困難になってきている不安

- ・「災害時の避難活動が困難になってきている」不安については、「大いに不安」、「不安」、「やや不安」との回答が約8割を占める。

表 集落の災害発生時における不安

質問項目		大いに不安	不安	やや不安	不安は感じない	計
災害時の避難活動が困難になってきている	度数	67	61	90	56	274
	%	24.5%	22.3%	32.8%	20.4%	100%

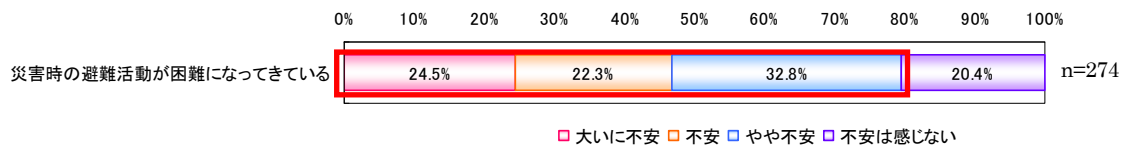


図 災害時の避難活動が困難になっている不安

○災害による孤立における不安

- ・「災害による孤立」の不安については、「大いに不安」、「不安」、「やや不安」との回答が約7割を占める。

表 集落の災害発生時における不安

質問項目		大いに不安	不安	やや不安	不安は感じない	計
災害による孤立	度数	61	56	73	84	274
	%	22.3%	20.4%	26.6%	30.7%	100%

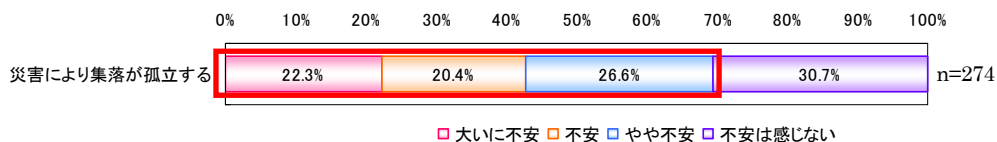
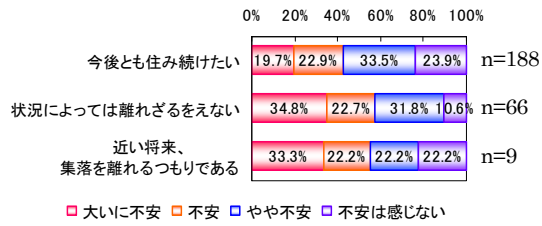
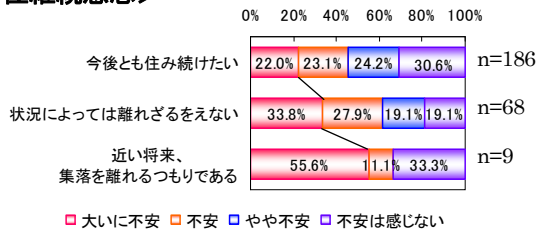


図 災害による孤立についての不安

○集落の災害発生時における不安と居住継続意志の関係

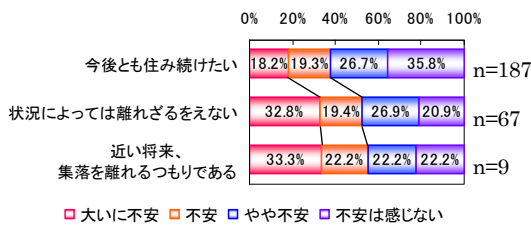
- ・「今後とも住み続けたい」集落ほど、「不安を感じない」割合が高くなる傾向がある。

<居住継続意志>



土砂崩れ、崖崩れ等の発生危険箇所の存在

災害時の避難活動が困難になってきている

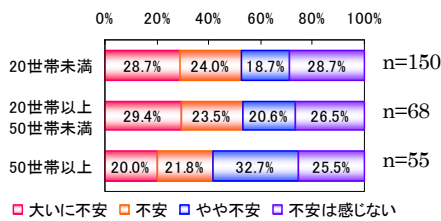


災害による孤立

○集落の災害発生時における不安と世帯規模の関係

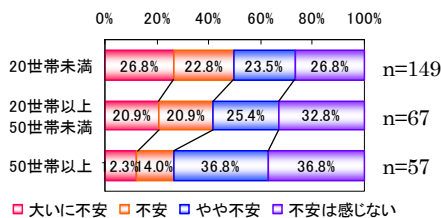
- ・世帯規模が大きくなるほど、集落の災害発生時における不安が小さくなる傾向にある。但し、「土砂崩れ、崖崩れ等の発生危険箇所の存在」の傾向についてのみ、災害発生時における不安との関係性が見られなかった。

<世帯規模>



土砂崩れ、崖崩れ等の発生危険箇所の存在

災害時の避難活動が困難になってきている

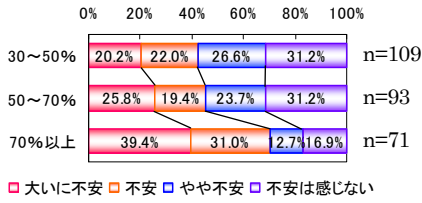


災害による孤立

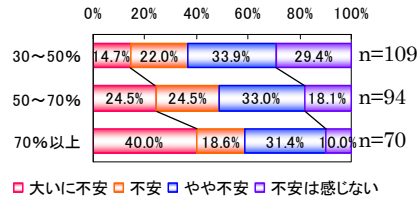
○集落の災害発生時における不安と高齢化率の関係

- ・高齢化率が高くなるほど、集落の災害発生時における不安が大きくなっている。

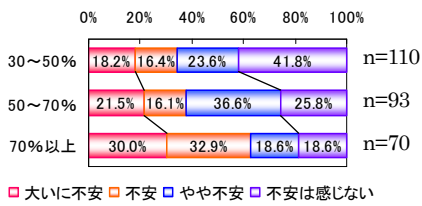
<高齢化率>



土砂崩れ、崖崩れ等の発生危険箇所の存在



災害時の避難活動が困難になってきている

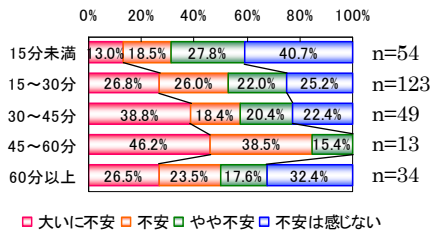


災害による孤立

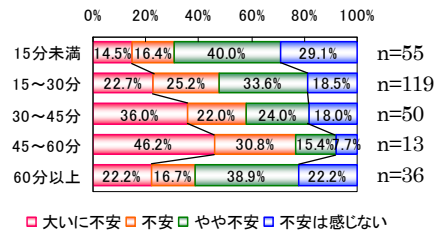
○集落の災害発生時における不安と生活中心都市までの時間距離との関係

- ・生活中心都市との時間距離が増加するほど、災害発生時における不安が大きいが、時間距離60分を超える地域ではその傾向が見られなかった。(生活中心都市までの時間距離が60分を超える集落は離島に多い。)

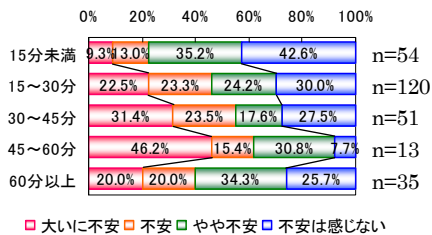
<生活中心都市までの時間距離>



土砂崩れ、崖崩れ等の発生危険箇所の存在



災害時の避難活動が困難になってきている



災害による孤立

⑤その他集落生活を営む上での不安

○その他集落生活を営む上での不安として記述のあった回答として以下のような意見があった。

表 その他集落生活を営む上での不安（選出）

現金収入がない。国民年金ではとても大変である。
農村産物の価格の低迷。
急坂ではないのに坂道には高齢者は大変な思いをしているのが目にみえます。電動車いすがあるといいなと思うことが良くあります。何%かの補助をしてもらえないものかと思う。
色々な世話役（役職）ができない。
道路の整備。
祭日・土日のバス運休。
路線バスの回数が減少している。
高齢化で道路維持管理が困難。
市道（生活道路）の改修をしないから車の運転がしにくい。
国道の早期整備をしてほしい。
少子高齢化。
後継不足。
お年寄りだけの世帯がふえている。車の運転ができない為、移動手段もない。
一人暮らしが多いので大変です。
通院。
災害時、緊急時（携帯電話が入らない）。

⑥集落で今後居住を継続する上での不安の度合い

○ 居住を継続する上での不安の度合い

- ・不安を感じる項目上位3つをたずねたところ、「医療施設が遠い」（117 集落）が最も多く、次いで、「鳥獣被害等が増加している」（95 集落）となっている。
- ・農林作業における不安では「鳥獣被害等が増加している」（95 集落）が最も多く、更に、「山林・田畑の管理がままならなくなっている」（65 集落）も多くなっている。
- ・地域コミュニティ活動の不安では「隣近所の付き合いが減ってきている」（16 集落）ことは他と比べ少なくなっている。
- ・生活サービスの不安では「医療施設が遠い（サービスが受けにくい）」（117 集落）が多く、次いで「近くに働く場が無くなっている」（68 集落）が多くなっている。
- ・災害発生時の不安は「災害発生危険性の高い場所がある」（38 集落）、「避難活動が困難」（28 集落）、「災害による孤立」（38 集落）ともに同様な傾向を示したが、不安の度合いとしては全体的に低くなっている。

n=731

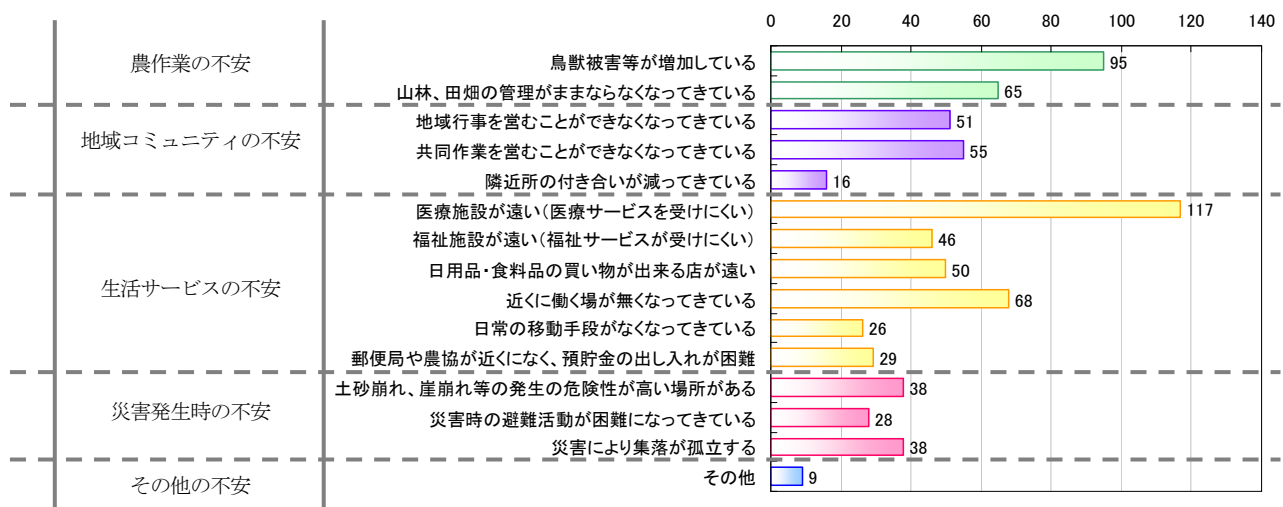


図 集落で今後居住を継続する上での不安の度合い

○ 居住を継続する上での不安の度合い（集落区分別）

- ・ 不安を感じる項目上位3つをたずねた設問を集落区分「中心市街地」、「郊外住宅地」、「離島」、「農山漁村」に分けて集計したところ、集落区分により異なる傾向を示した。
- ・ 「郊外住宅地」では、「近くに働く場がなくなってきている」が最も多く、次いで「日常の移動手段が減っている」、「医療施設が遠い」が多い。また、災害に関する不安についての回答が全くなかった。
- ・ 「離島」では、「近くに働く場がなくなってきている」が最も多く、次いで「医療施設が遠い」が多かった。
- ・ 「農山漁村」では「医療施設が遠い」が最も多く、次いで「鳥獣被害が増加している」や「山林・田畑の管理」に関する不安が多かった。

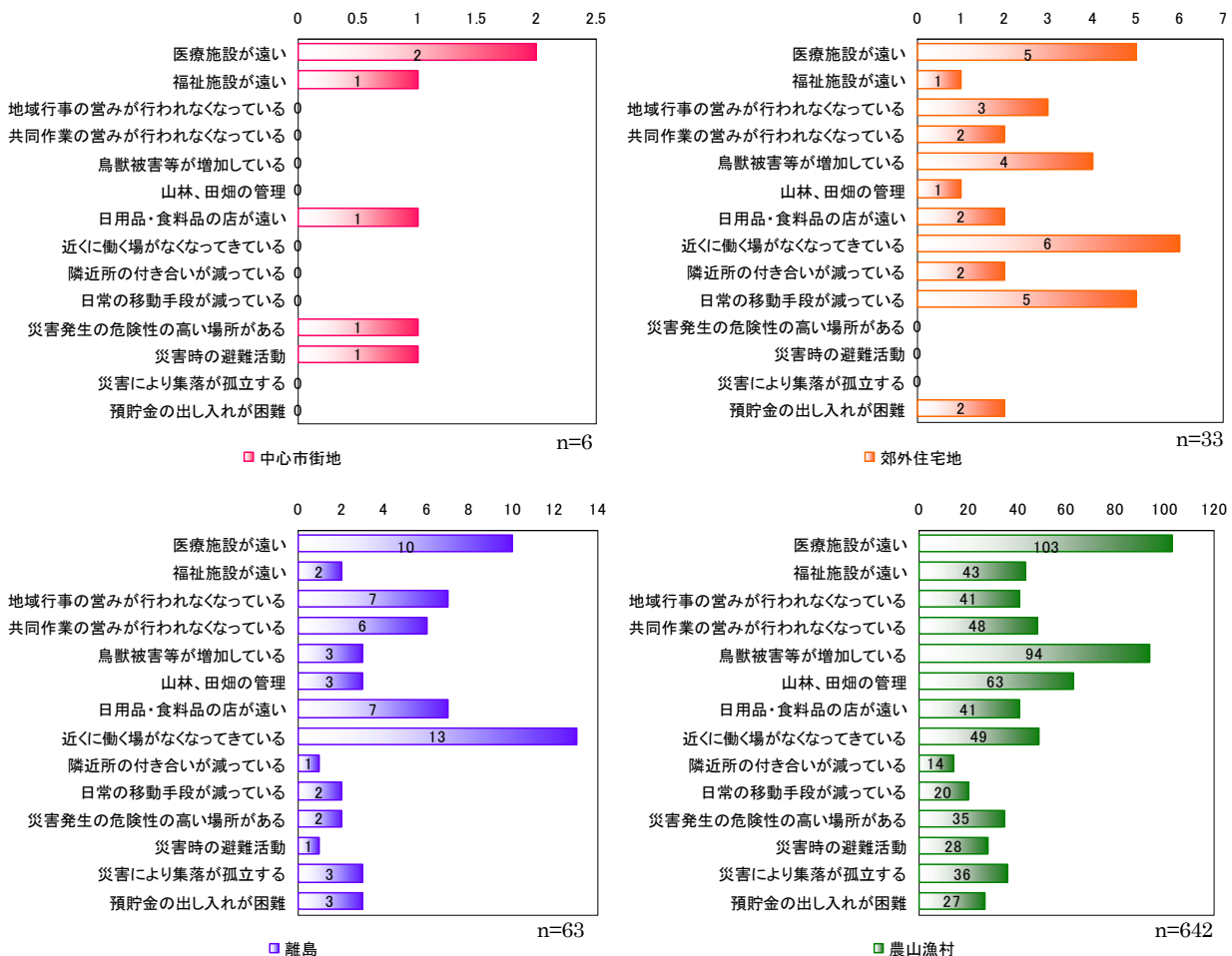


図 集落で今後居住を継続する上での不安の度合い（集落区分別）

⑦今後居住を継続する上で必要な支援体制（質問5）

- 今後集落での居住を継続する上で必要な支援体制のあり方について把握するため、下記の6段階の回答選択肢についてたずねた
- 「集落内の相互扶助」
- 「周辺集落の協力」
- 「他出者（集落の外に出て行った家族や親族等）の協力」
- 「集落外の支援者（住民ボランティア、住民団体、企業、NPO、専門家、大学生等）の協力」
- 「国や自治体の支援・協力」
- 「その他（具体的に）」
- また、これらの項目のうち、最も重要である支援体制について選択していただき、今後居住を継続する上で必要な支援体制の優先度について把握した。

○**今度居住する上で必要な支援体制**

- ・最も重要な支援体制は、「国や自治体の支援・協力」との回答が106集落となり、次いで「集落内の相互扶助」との回答が70集落と多くなっている。
- ・必要な支援体制について、「集落内の相互扶助」「国や自治体の支援・協力」は、「とても必要」、「必要」との回答が、合わせて約9割を占める。
- ・「集落外の支援者からの支援」は、「不必要」である割合が、他と比較して高くなっている。
- ・集落元気づくりへ取り組む気がある、ないに関わらず、国や自治体への支援・協力要望は高い。

表 今後居住を継続する上で必要な支援体制

質問項目		とても必要	必要	やや必要	不必要	計
集落内の相互扶助	度数	139	117	26	4	286
	%	48.6%	40.9%	9.1%	1.4%	100%
周辺集落の協力	度数	73	141	57	11	282
	%	26.0%	50.2%	19.9%	3.9%	100%
他出者（集落の外に出て行った家族や親族等）の協力	度数	56	108	94	13	271
	%	20.7%	39.6%	34.8%	4.8%	100%
住民ボランティア、住民団体、企業、NPO、専門家、大学生等の協力	度数	35	86	116	37	274
	%	12.8%	31.4%	42.3%	13.5%	100%
国や自治体の支援・協力	度数	158	96	32	5	291
	%	54.3%	33.0%	11.0%	1.7%	100%
その他（具体的に：）	度数	19	3	1	0	23
	%	82.6%	13.0%	4.3%	0.0%	100%

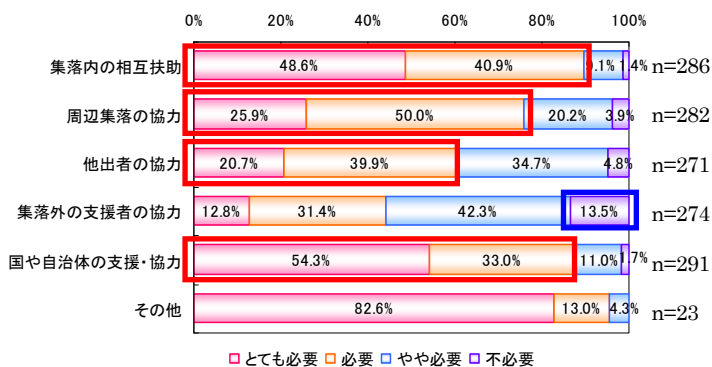


図 今後居住を継続する上で必要な支援体制

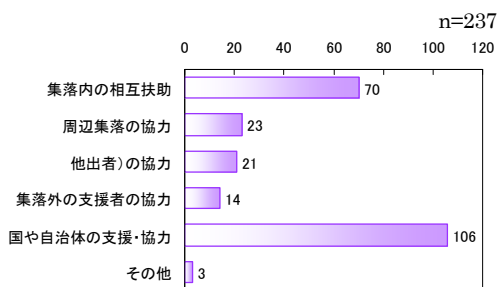


図 今後居住を継続する上で最も重要な支援体制

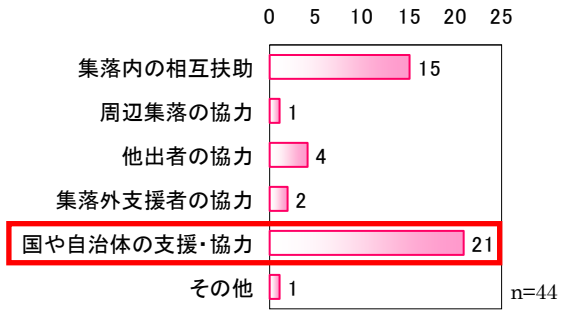


図 集落元気づくりを既に取り組んでいる集落

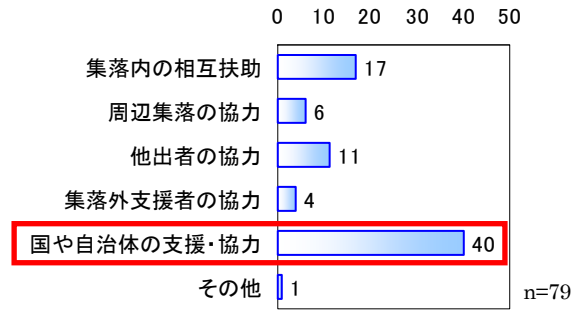
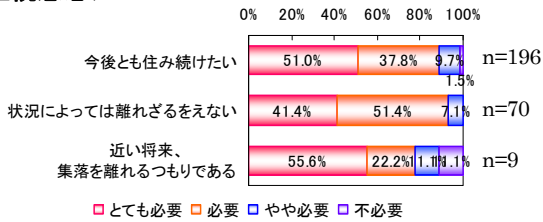


図 集落元気づくりを取り組む気がない集落

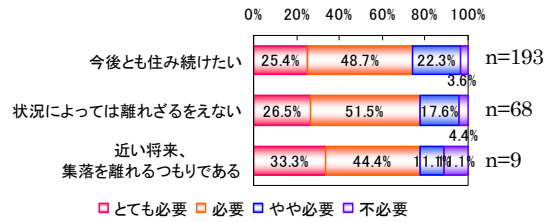
○今後居住する上で必要な支援体制と居住継続意志の関係

・必要な支援体制と居住継続意志には、顕著な傾向は見られなかった。

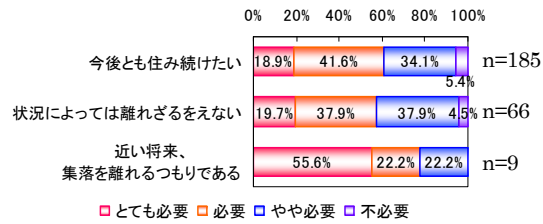
<居住継続意志>



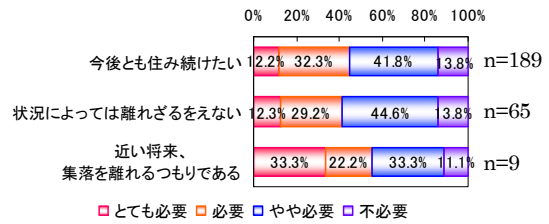
集落の相互扶助



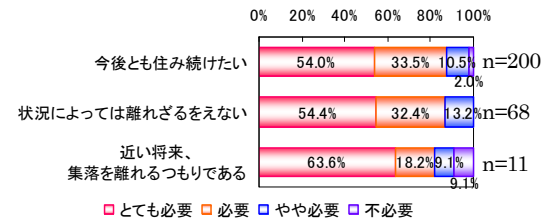
周辺集落の協力



他出者の協力



集落外の支援者の協力

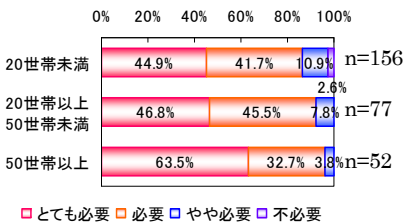


国や自治体の支援・協力

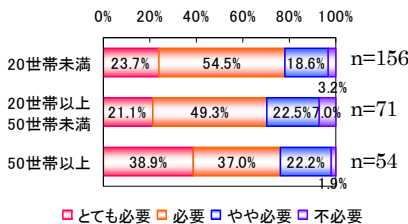
○今後居住する上で必要な支援体制と世帯規模の関係

・必要な支援体制と世帯規模には、顕著な傾向は見られなかった。

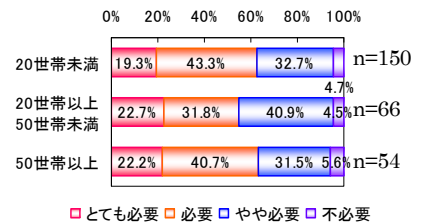
<世帯規模>



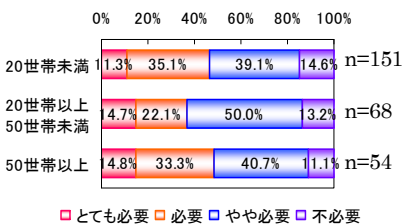
集落の相互扶助



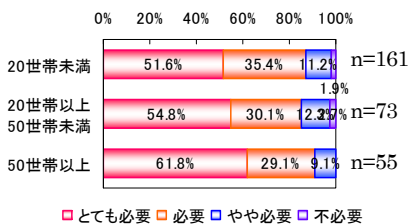
周辺集落の協力



他出者の協力



集落外の支援者の協力

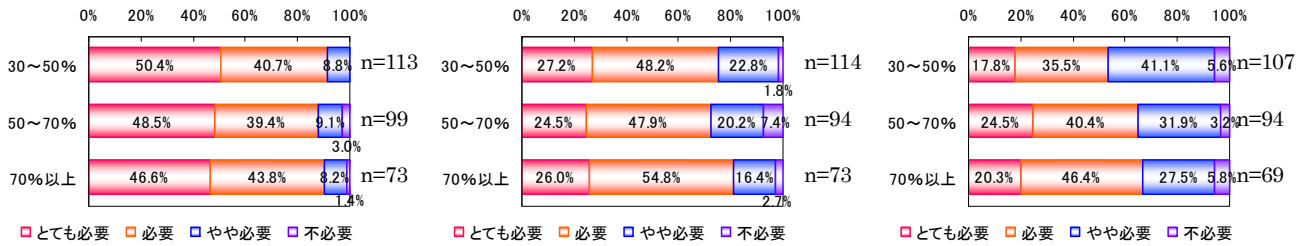


国や自治体の支援・協力

○今後居住する上で必要な支援体制と高齢化率の関係

- ・必要な支援体制と高齢化率には、顕著な傾向は見られなかった。

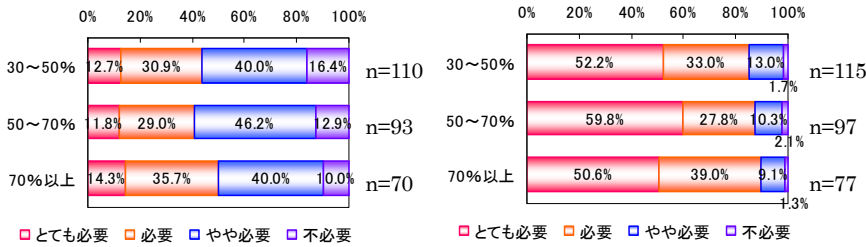
＜高齢化率＞



集落の相互扶助

周辺集落の協力

他出者の協力



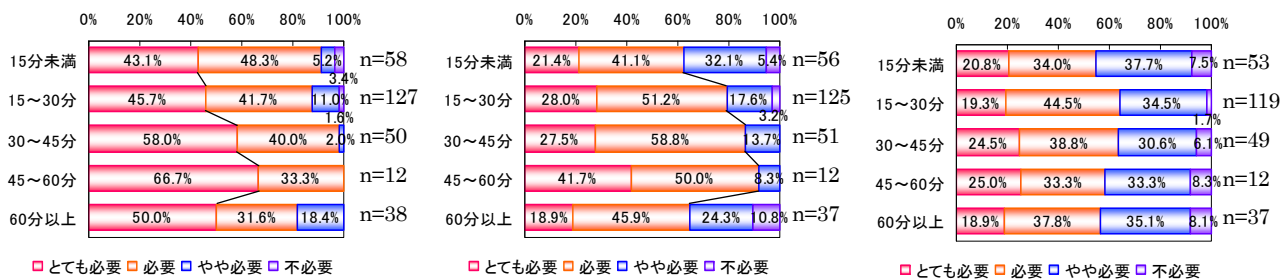
集落外の支援者の協力

国や自治体の支援・協力

○今後居住する上で必要な支援体制と生活中心都市までの時間距離の関係

- ・「集落の相互扶助」や「周辺集落の協力」については、生活中心都市までの時間距離が遠くなるほど、必要とする回答割合が高くなる傾向にある。
- ・60分以上に関しては、上記傾向からは外れるものの、これは離島にある集落が含まれることによるものと予想される。

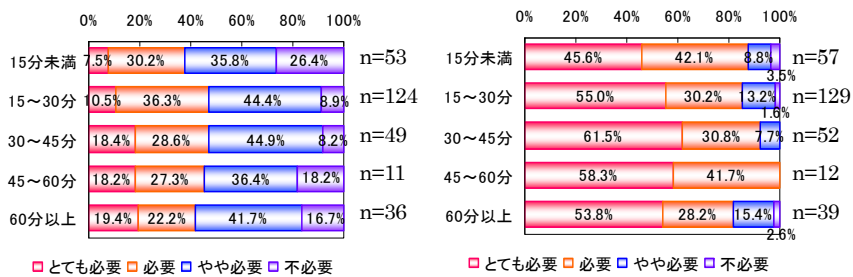
＜生活中心都市までの時間距離＞



集落の相互扶助

周辺集落の協力

他出者の協力



集落外の支援者の協力

国や自治体の支援・協力

⑧居住継続に対する意識のまとめ

- ・ 「世帯規模の小規模化」や「集落の高齢化」は、集落の居住継続に対する意欲の低下と関係があること明らかとなった。
- ・ 「農林作業」、「集落の集団活動」、「生活サービス」、「災害発生」における不安が、居住継続意志に関係があることも判明した。(各項目について「大いに不安」と回答した集落ほど、「近い将来集落を離れるつもりである」と回答した集落が多かった。)
- ・ このことから、集落での生活を継続するにあたっては、集落の不安を取り除くことが必要であることがわかったが、集落の不安は「郊外住宅地」、「離島」、「農山漁村」において、それぞれ異なる傾向を示しており、不安解消に向けた集落毎の個別の対策が必要となる。
- ・ また、今後居住を継続する上で必要な支援体制としては、「集落内の相互扶助」が必要であると回答した集落が最も多かったが、同時に集落元気づくりへの取組意志の有無に係わらず「国や自治体の支援・協力」が必要と回答した集落が最も多かった。このことから、集落支援を行う外部支援者として、国・自治体はその他の支援者（周辺集落、他出者、外部支援者）よりも認知されていることが伺える。

2.5. 集落元気づくりに向けた取り組み状況と意向

(1) 集落元気づくりに向けた取り組み（質問10）

- 集落に居住されている人たちの元気を呼び戻す「集落元気づくり」に向けた取組の意向について下記の6つの回答選択肢より1つ選んでいただいた
- 「既に取り組みを実施している」
- 「取り組みに向けて集落内の話し合いをしたい」
- 「周辺集落と協力して取り組みたい」
- 「他出者（集落の外に出て行った家族や親族）と協力して取り組みたい」
- 「集落外の支援者（住民ボランティア、住民団体、企業、NPO、専門家、大学生等）と協力して取り組みたい」
- 「今のところ取り組む気はない」

○集落元気づくりに向けた取り組み

- ・ 「既の実施している」との回答が 17.4%となり、「取り組み意欲がある」との回答が合わせて 47.0%、「今のところ取り組む気はない」との回答が 35.8%となっている。
- ・ 集落元気づくりへの「取り組み意欲がない」集落は小規模集落に多いが、小規模であっても「周辺集落等の支援を受けて取り組みたい等」の意欲がある集落も多くある。
- ・ 既に集落元気づくりへの取組を実施している集落は世帯数の多い集落が多い。

表 集落元気づくりに向けた取り組み

質問項目	計	割合(%)
既に取り組みを実施している	50	17.4%
取り組みに向けて集落内の話し合いをしたい	51	17.7%
周辺集落と協力して取り組みたい	54	18.8%
他出者（集落の外に出て行った家族や親族）と協力して取り組みたい	14	4.9%
集落外の支援者（住民ボランティア、住民団体、企業、NPO、専門家、大学生等）と協力して取り組みたい	16	5.6%
今のところ取り組む気はない	103	35.8%
合計	288	100%

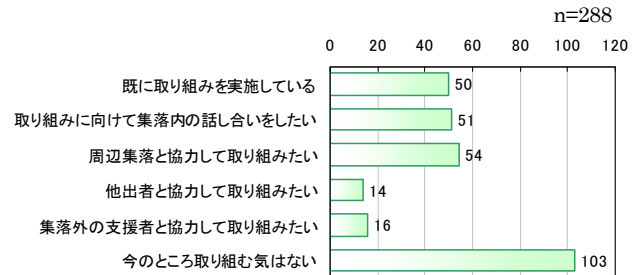


図 集落元気づくりに向けた取り組み

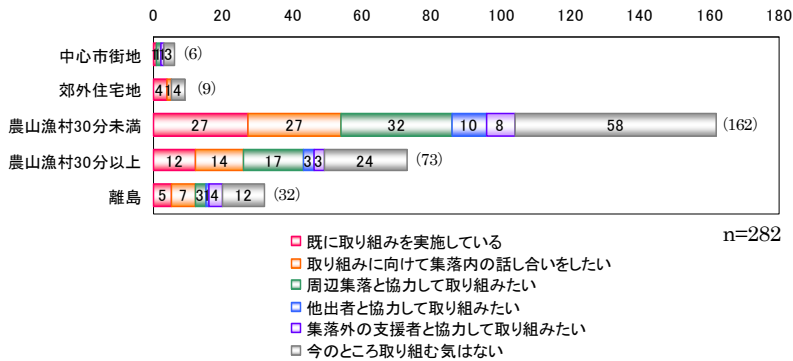


図 集落元気づくりに向けた取り組みへの意欲

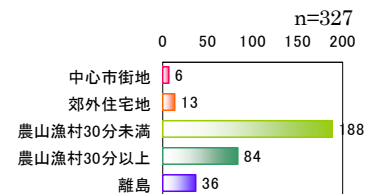
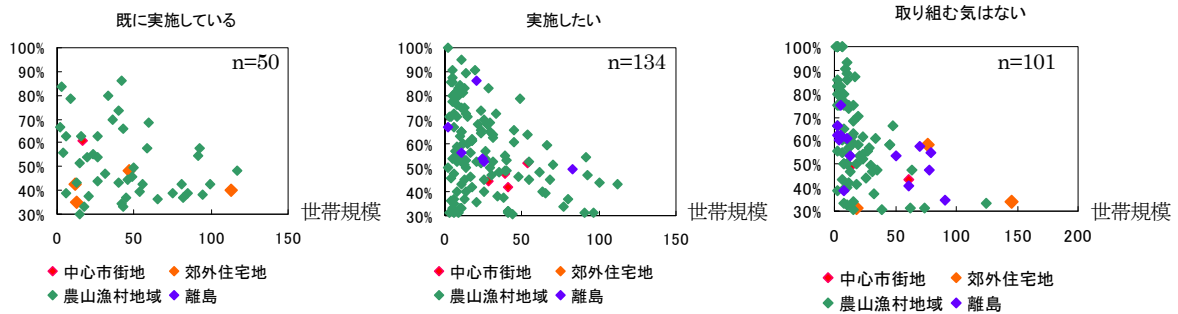


図 集落区別の集落数



○今後居住する上で必要な支援体制と居住継続意志の関係

- ・ 居住継続意志が低くなるほど、集落元気づくりへの取り組み意欲が低くなっている。

<居住継続意志>

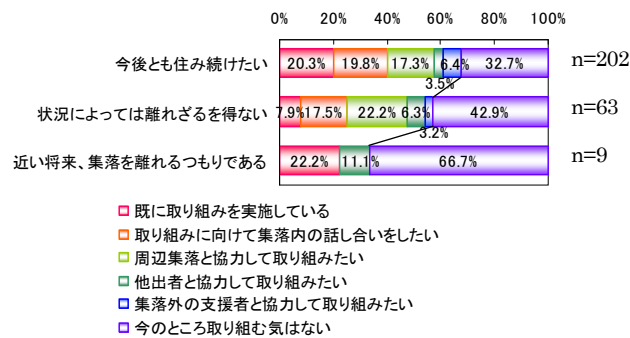


図 集落元気づくりに向けた取り組みと居住継続意志の関係

○今後居住する上で必要な支援体制と世帯規模の関係

- ・ 世帯規模が大きくなるほど、「既に実施している」割合が高くなっている。
- ・ 集落元気づくりへの取り組み意欲がある（「既に取り組みを実施している」、「取り組みに向けて集落内の話し合いをしたい」、「周辺集落と協力して取り組みたい」、「他出者（集落の外に出て行った家族や親族）と協力して取り組みたい」、集落外の支援者（住民ボランティア、住民団体、企業、NPO、専門家、大学生等）と協力して取り組みたい）との回答は、集落規模が 20～50 世帯が最も高く（77.2%）、次いで 50 世帯以上（73.5%）、20 世帯未満（55.1%）となっている。

<世帯規模>

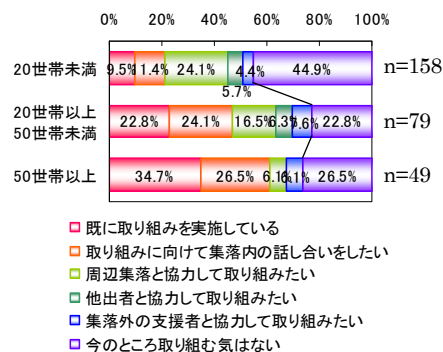


図 集落元気づくりに向けた取り組みと世帯規模の関係

○今後居住する上で必要な支援体制と高齢化率の関係

・高齢化率が高くなるほど、集落元気づくりへの取り組み意欲が低くなっている。

<高齢化率>

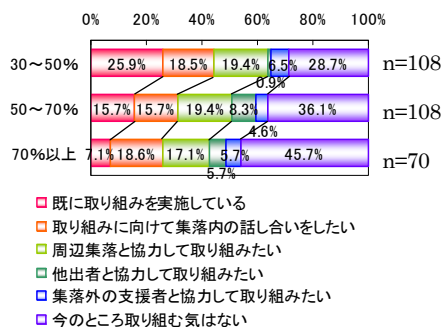


図 集落元気づくりに向けた取り組みと高齢化率の関係

○今後居住する上で必要な支援体制と生活中心都市までの時間距離の関係

・今後居住する上で必要な支援体制と生活中心都市までの時間距離の関係はみられないものの、「今のところ取り組む気はない」とする回答割合については、生活中心都市までの時間距離が遠くなるほど、低くなる傾向にある。

・60分以上に関しては、上記傾向からは外れるものの、これは離島にある集落が含まれることによるものと予想される。

<生活中心都市までの時間距離>

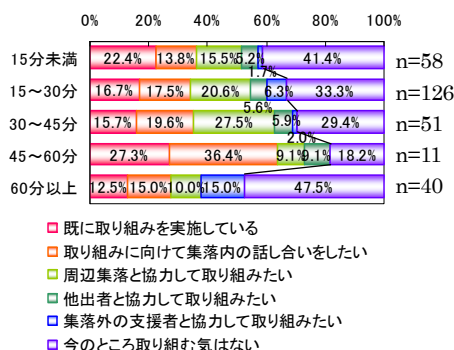


図 集落元気づくりに向けた取り組みと生活中心都市までの時間距離の関係

○今後居住する上で必要な支援体制と回答者の年齢区分の関係

・今後居住する上で必要な支援体制と回答者の年齢区分との関係はみられないものの、「今のところ取り組む気はない」とする回答割合については、回答者の年齢が高いほど、高くなる傾向にある。

<回答者の年齢区分>

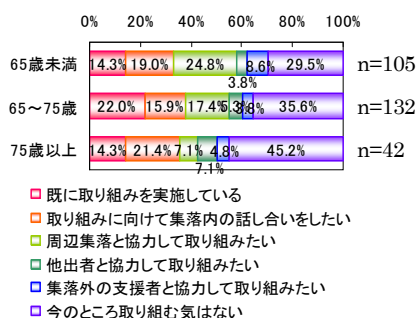


図 集落元気づくりに向けた取り組みと回答者の年齢区分の関係

(2) 集落内の地域として誇るべき地域資源（質問6）

- 集落内もしくは近隣に、あまり人に知られていないが地域として誇るべき資源（例えば、風景、自然林、湧水、清流、寺社・祠等）があるかを把握するため、資源の名称及びその特徴について記述していただいた。
- 記述された資源名称を「風景」、「自然林」、「湧水」、「清流」、「寺社・ほこら」、「その他」の6つに分類し、その傾向を分析した。

○集落内の地域として誇るべき地域資源

- ・「風景」との回答が41集落となり、次いで「寺社・ほこら」との回答が36集落となっている。

表 誇るべき集落の地域資源

質問分類項目	計
風景	41
自然林	12
湧水	24
清流	25
寺社・ほこら	36
その他	32
記載無し	215

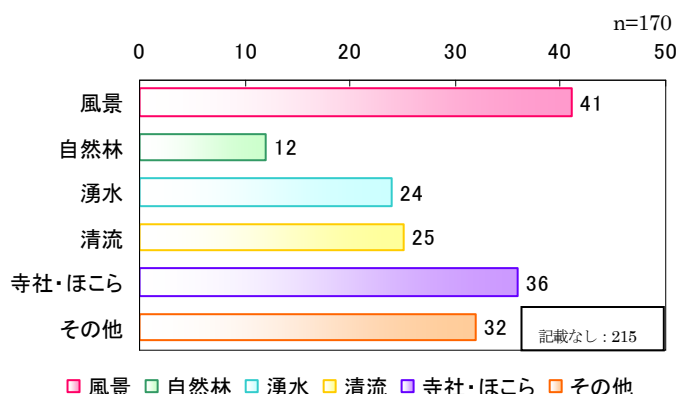


図 誇るべき集落の地域資源

表 項目別代表的な資源（選出）

質問分類項目	資源名称
風景	高原の野焼き、眼鏡橋、椽の木橋、雪舟の庭園、岩戸、峡谷
自然林	ホルトの樹、五葉松、ガジュマル、大銀杏、梅林公園
湧水	妙見宮、高木水源、湧水群、健康の泉、温泉、冷泉
清流	白糸の滝、一番滝
寺社・ほこら	神社、菊池家墓所、ねずみ神社、平家落人居住跡地、安国寺、観世音菩薩、地藏、洞穴
その他	城址、勘場跡、旧軍用施設、自然石群、天文台、関所、精米施設、砲台跡

(3) 集落内で今後活用可能な資源（質問7）

- 集落内もしくは近隣に、今後活用可能な資源（例えば、遊休地、耕作放棄地、空き家、廃校、管理されない共有林等）があるかを把握するため、資源の名称及びその特徴について記述していただいた。
- 記述された資源名称を「遊休地」、「耕作放棄地」、「空き家」、「廃校」、「管理されない共有林」、「その他」の6つに分類し、その傾向を分析した。

○集落内で今後活用可能な資源

- ・「耕作放棄地」との回答が35集落となり、次いで「空き家」が25集落、「廃校」が25集落となっている。

表 集落内で今後活用可能な資源

質問分類項目	計
遊休地	18
耕作放棄地	35
空き家	25
廃校	25
管理されない共有林	11
その他	11
記載無し	236

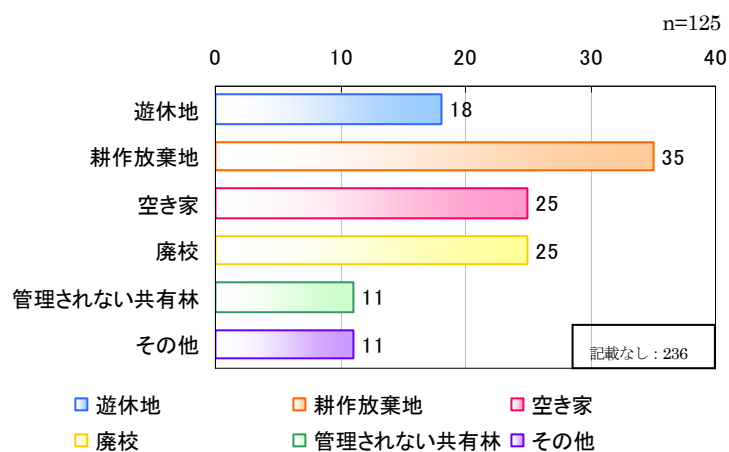


図 集落内で今後活用可能な資源

(4) 集落内の山の幸や海の幸 (質問8)

- 集落における山の幸 (山菜等)、海の幸 (海草・魚介類等) があるかを把握するため、食材 (もしくは (料理) の内容を記述していただいた。
- 記述された食材 (料理) 名称を「山菜」、「農作物」、「果樹」「魚介」、「食肉」、「加工」、「その他」の7つに分類し、その傾向を分析した。
- また、これら食材の量がどれくらいあるかを把握するため「販売可能なほど食材がある」、「集落家庭内で食するほどある」、「ない」のいずれかを選択していただいた。

○集落内海の幸や山の幸

- ・ 「山菜」との回答が 155 集落と特に多く、次いで魚介類との回答が 23 集落となっている。
- ・ 食材の量は、「集落家庭内で食するほどある」との回答が 128 集落となり、「販売可能なほど食材がある」との回答が 51 集落となっている。

表 集落内の山の幸・海の幸

質問分類項目	計
山菜	155
農作物	8
果樹	11
魚介	23
食肉	4
加工	31
記載無し	155

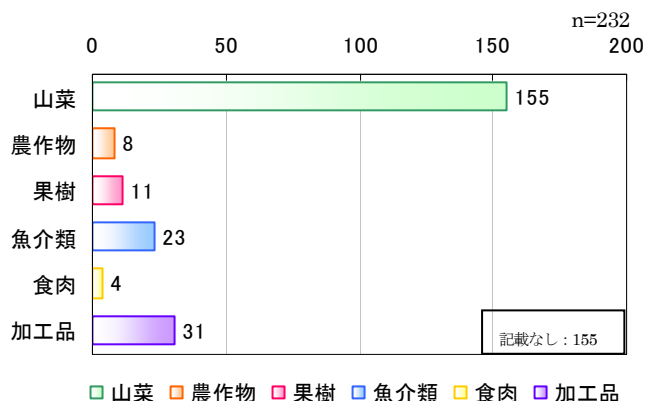


図 集落内の海の幸・山の幸

表 項目別代表的な食材 (選出)

質問分類項目	食材・料理名称
山菜	蕨、ゼンマイ、筍、蒨、タラの芽、芹、山葵、椎茸、イタドリ、独活、フキノトウ、山椒、蓬、コシアブラ、クサギ、山芋、松茸、土筆、クレソン、三つ葉、石蓴、野蒜、
農作物	米、麦、大豆、野菜、蕎麦
果樹	ムベ、アケビ、柚子、柿、栗、野苺、山桃、島みかん、梅、キウイ
魚介	サザエ、烏賊、蛸、海老、蜆、雲丹、アオサ、蟹、鰻、鯨、カマス、ヒジキ、ツノリ、川魚、ワカメ、牡蠣、飛び貝
食肉	猪、鹿
加工	独活の味噌和え、蒨の佃煮、ツワの油炒め、雲丹丼、サザエ丼、コンニャク、梅林漬、コッパ餅、独活の根の蒲焼、蓬餅、

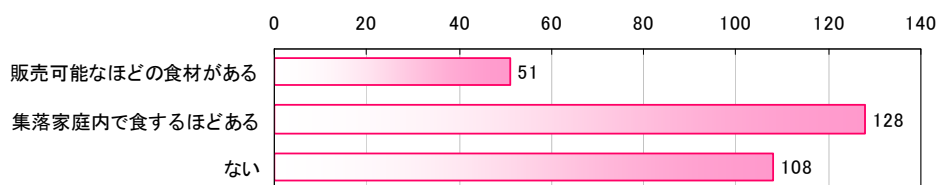


図 集落にある食材の量

n=287

(5) 子孫に伝えたい伝統文化、芸能、風習（質問9）

- 集落において代々受け継がれてきた伝統文化、芸能・風習について把握するため、伝統文化や芸能、風習の内容及びその特徴を記述していただいた。
- 記述された伝統文化、芸能、風習の名称を「伝統文化」、「祭り」、「文化財」「その他」の4つに分類し、その傾向を分析した。

○子孫に伝えたい伝統文化、芸能、風習

- ・「伝統芸能」との回答が62集落となり、次いで「祭り」が36集落となっている。

表 受け継がれてきた伝統文化・芸能・風習

質問分類項目	計
伝統文化	62
祭り	36
文化財	1
その他	21
記載無し	233

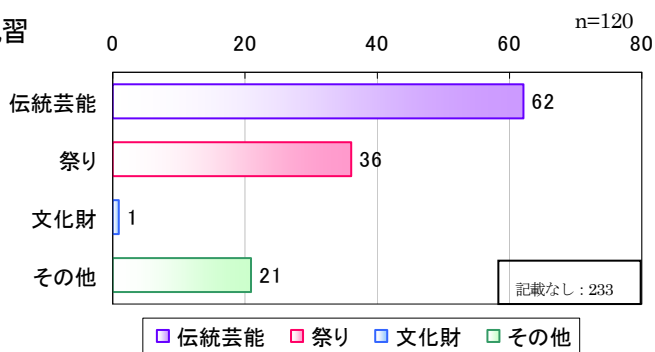


図 受け継がれてきた伝統文化・芸能・風習

表 項目別代表的な伝統文化・芸能・風習（選出）

質問分類項目	伝統文化・芸能・風習名称
伝統文化	棒おどり、神楽の伝統、鬼火たき、獅子舞、人形芝居、太鼓踊り、虚無僧踊、狩踊、金山踊、髯踊、矢旗踊、祝い唄
祭り	山神祭り、盆踊り、うどん祭り、豊年祭、氏神祭、天神祭、地藏祭、先祖供養祭、8月15夜まつり
文化財	長観世音菩薩
その他	花見運動会、子供の頃から聞いた話、金山の歴史

(6) 集落元気づくりのアイデア (質問11)

- 集落での、集落元気づくりの取り組み内容、あるいは今後取り組むアイデアについて把握を行い、その傾向を分析することを目的とする。
- 記述していただいたアイデアを「独創性」(他の地域であまり取り組まれていないアイデア)、「実現性」(既に実施しているあるいは実現可能性の高いアイデア)、「安心」(集落の生活、安全機能向上に関するアイデア)、「元気」(集落の地域資源活用に関するアイデア)、「外部交流」(外部支援あるいは外部交流に関するアイデア)、「その他」(その他のアイデア、もしくはアイデア以外のこと)の6項目に分類した。

○集落元気づくりのアイデア

- ・集落元気づくりのアイデアは、「元気につながるアイデア」の回答が 55 集落あり、「安心につながるアイデア」の回答が 46 集落あった。

表 集落元気づくりのアイデア

質問分類項目	計
安心	46
元気	55
外部交流	32
その他	31
記載無し	195

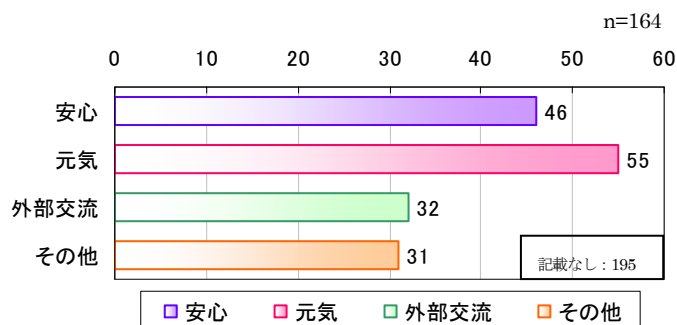


図 集落元気づくりのアイデア

3. 自治体アンケート調査の結果

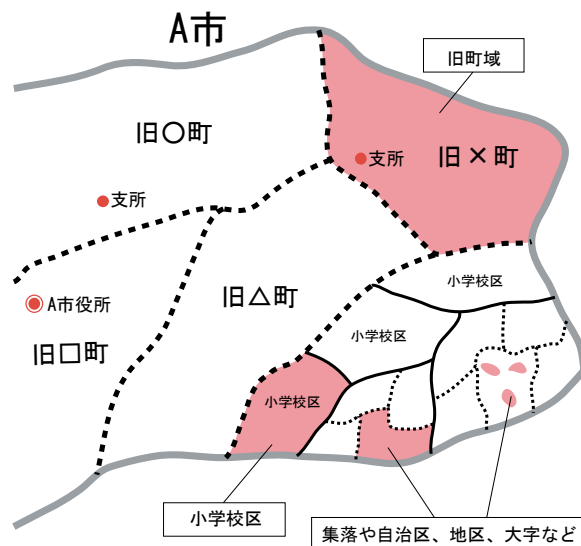
- 自治体アンケートは集落代表者に対する集落アンケートにおいて、把握することが困難な集落の基礎的な情報（集落基本単位の考え方、集落類型区分、集落世帯規模、高齢化率）について把握することを目的とする。（クロス集計の項目として考えられる項目については集落アンケートの集落基本属性においてとりまとめた。）

①集落の基本単位の考え方

- 集落の基本単位の考え方は、自治体により異なり、世帯規模に影響を及ぼすことから、自治体の集落の基本単位の考え方を「町丁目・大字などの住所表示で指定」、「自治区、地区、小学校区など、一定の規模で指定」、「市町村合併前の行政区（旧町域・村域）で指定」、「その他」の4段階に区分し、分析を行った。

《集落の基本単位の考え方（参考）》

※「集落」とは、一定の土地に数戸以上の社会的まとまりが形成された、住民生活の基本的な地域単位であり、市町村行政において扱う行政区の基本単位（農業センサスにおける農業集落とは異なる）として下さい。
（H18.6月実施「過疎地域等における集落の状況に関するアンケート調査（国土交通省国土計画局総合計画課，総務省自治行政局過疎対策室）」と同定義）



3.1. 自治体の集落の基本単位の考え方(質問1)

○ 自治体の集落基本単位の考え方

集落の基本単位の考え方は、「自治区・地区・小学校区など、一定の規模で指定」しているとの回答が、約7割を占める。

- ・「町丁目・大字などの住所表示」及び「市町村合併の前の行政区（旧町域・村域）で指定」との回答が、それぞれ約1割占める。

表 集落の基本単位の考え方

質問項目	計	割合(%)
町丁目・大字などの住所表示で指定	17	13.9%
自治区・地区・小学校区など、一定の規模で指定	85	69.7%
市町村合併の前の行政区（旧町域・村域）で指定	14	11.5%
その他	6	4.9%
合計	122	100%

n=122

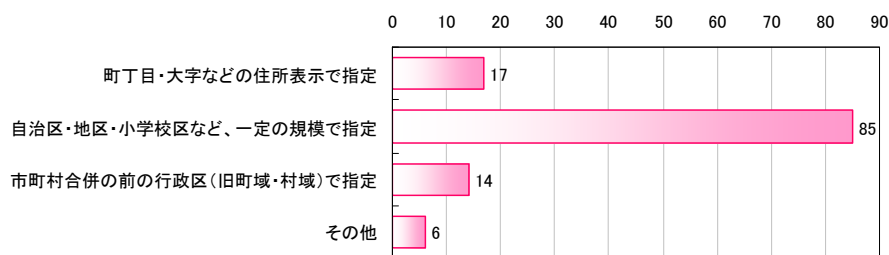


図 集落の基本単位の考え方

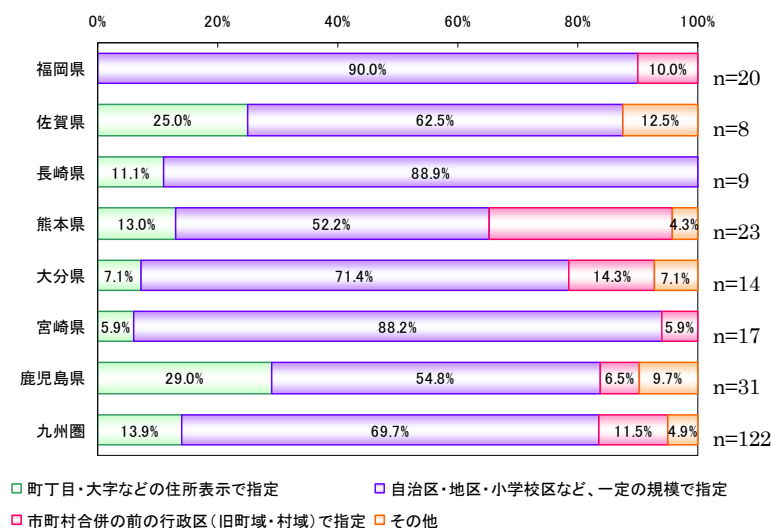


図 自治体における集落の基礎単位の捉え方(県別)

3.2. 集落の交流機能・生活機能(質問1)

- 集落の交流（コミュニティ）機能（集会施設、学校施設等）や生活サービス機能（社会基盤、公共交通、医療福祉、商業施設等）の状況を把握することを目的として、以下の施設の整備状況を集落毎に把握した。

(1)集落の交流(コミュニティ)機能

① 集会場施設

- 施設あり（健全）」
- 「施設あり（要修繕）」
- 「施設無し」

② 学校施設

- 「施設あり」
- 「建築物や敷地の残っている廃校あり」
- 「施設無し」

③ 集落の寄り合い等に利用可能なその他公共施設

- 「施設あり（健全）」
- 「施設あり（要修繕）」
- 「施設無し」

(2)集落の生活サービス

① 交通インフラの整備状況

- 「片側1車線（両側2車線）以上の幅員の道路が整備済）」
- 「狭隘な道路（離合可能）」
- 「狭隘な道路（待合い離合）」

② ブロードバンドの整備状況

- 「集落内整備」
- 「集落内は整備されていないが自治体内では整備地域あり」
- 「整備無し」

③ 携帯電話の通話圏域

- 「問題なく通話できる」
- 「一部通話に不通箇所あり」
- 「通話は困難」

④ 介護・福祉訪問サービスの担い手

- 「集落内にいる」
- 「域外も含め集落外からのサービス」
- 「無し」

⑤ 福祉機能（施設）の状況

- 「福祉施設が徒歩圏内にあり」
- 「福祉施設への送迎サービスあり」
- 「無し」

⑥ 公共交通の運行状況

- 「有（5便／日以上）」
- 「有（5便／日未満）」
- 「無し」

⑦ 商業機能（施設）の状況

- 「店舗（雑貨屋等）あり」
- 「移動販売あり」
- 「無し(車等で買い出し)」

⑧ 医療機能（施設）の状況

- 「病院・診療所（医者常駐）あり」
- 「巡回医療あり」
- 「無し（救急車か車で搬送）」。

⑨ 小学校の状況

- 「1km 圏徒歩通学可能」
- 「4km 圏 1 時間以内の徒歩通学」
- 「バス等交通手段が必要）」

(1) 集落の交流（コミュニティ）機能

○集落の交流（コミュニティ）機能

- ・「集会場施設が有る」との回答が約 7 割を占める。
- ・「学校施設（建築物や敷地の残っている廃校含む）が無い」との回答が約 9 割を占める。
- ・「その他の公共施設（集落の寄り合いに利用可能な施設）が無い」との回答が約 8 割を占める。

表 集落の交流（コミュニティ）機能

質問項目		施設あり(健全)	施設有(要修繕)	施設なし	計
集会場施設の有無	度数	288	54	131	473
	%	60.9%	11.4%	27.7%	100%
質問項目		施設あり	建築物や敷地の残っている廃校あり	施設なし	計
学校施設の有無	度数	43	29	403	475
	%	9.1%	6.1%	84.8%	100%
質問項目		施設あり(健全)	施設有(要修繕)	施設なし	計
その他公共施設の有無	度数	109	7	353	469
	%	25.6%	42.5%	31.9%	100%

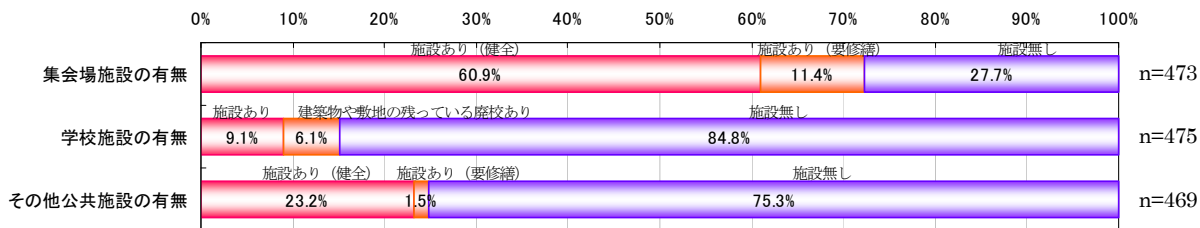


図 集落の交流・コミュニティ

表 集会場施設がない集落

		20世帯未満	20世帯以上 50世帯未満	50世帯以上	計
30~50%	度数	16	8	2	26
	%	61.5%	30.8%	7.7%	100%
50~70%	度数	39	6	1	46
	%	84.8%	13.0%	2.2%	100%
50~70%	度数	39	6	1	46
	%	98.3%	1.7%	0.0%	100%
計		113(86.3%)	15(11.5%)	3(2.3%)	131(100%)

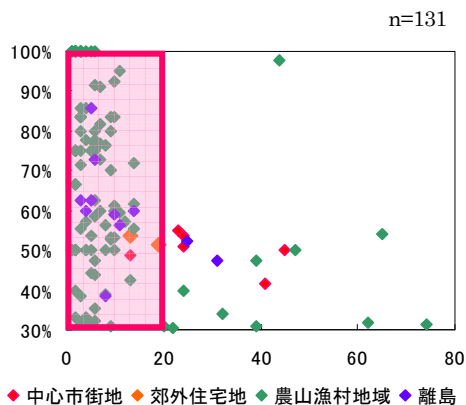
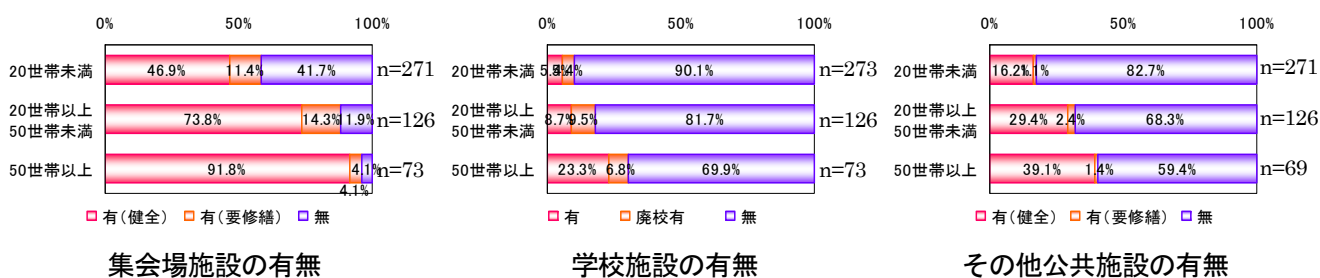


図 集会場施設がない集落

○集落の交流（コミュニティ）機能と世帯規模の関係

- ・集会場施設がない集落の約9割が20世帯未満の集落となっている。
- ・世帯規模と交流（コミュニティ）機能の関係では、20世帯未満の集落で「集会場施設が無い」との回答が約4割を占める。
- ・世帯規模が小さいほど、「学校施設の無い」、「その他公共施設（集落の寄り合いに利用可能な施設）が無い」割合が高くなっている。

<世帯規模>



(2) 集落の生活サービス

○集落の生活サービス

- ・「交通インフラの整備状況」は、「狭隘な道路（待合離合）」との回答が約 3 割を占める。
- ・「ブロードバンドの整備状況」は、「整備無し」、「自治体内一部整備」との回答が約 6 割を占める。
- ・「携帯電話の通話圏域」は、「問題なく通話可能」、「一部通話に不通箇所あり」との回答が、合わせて約 8 割を占める。
- ・「介護・福祉訪問サービスの担い手」は、「集落内にいる」、「域外も含め集落外からのサービス」との回答が、合わせて約 8 割を占める。
- ・「福祉施設の状況」は、「福祉施設が徒歩圏内にあり」、「福祉施設への送迎サービスあり」との回答が、合わせて約 8 割を占める。
- ・「公共交通の運行状況」は、「無し」との回答が約 4 割を占める。
- ・その他、「商業機能の状況」で「無し（車等で買出し）」との回答が約 7 割、「医療機能の状況」で「無し（救急車か車で搬送）」との回答が約 8 割、「小学校の状況」で、「バス等交通手段が必要」との回答が約 5 割を占める。

表 集落の生活サービス

質問項目		片側 1 車線	狭隘な道路 (離合可能)	狭隘な道路 (待合離合)	計
交通インフラの整備状況	度数 %	121 25.6%	201 42.5%	151 31.9%	473 100%
質問項目		集落内整備	自治体内では整備 地域あり	整備なし	計
ブロードバンドの整備状況	度数 %	156 33.3%	126 26.9%	187 39.9%	469 100%
質問項目		問題なく通話可能	一部通話に不通箇所 あり	通話は困難	計
携帯電話の通話圏域	度数 %	215 45.6%	178 37.8%	78 16.6%	471 100%
質問項目		集落内にいる	域外も含め集落外から のサービスあり	無し	計
介護・福祉訪問サービスの担い手	度数 %	14 3.0%	363 77.4%	92 19.6%	469 100%
質問項目		福祉施設が徒歩圏内 にあり	福祉施設への送迎 サービスあり	無し	計
福祉機能（施設）の状況	度数 %	14 3.0%	347 73.5%	111 23.5%	472 100%
質問項目		有(5 便/日以上)	有(5 便/日未満)	無し	計
公共交通の運行状況	度数 %	62 13.2%	215 45.8%	192 40.9%	469 100%
質問項目		店舗(雑貨屋等)あり	移動販売あり	無し(車等で買出し)	計
商業機能（施設）の状況	度数 %	75 15.8%	75 15.8%	325 68.4%	475 100%
質問項目		病院・診療所あり	巡回医療あり	無し(救急車か車で 搬送)	計
医療機能（施設）の状況	度数 %	26 5.5%	56 11.9%	390 82.6%	472 100%
質問項目		1km 圏徒歩通学可能	4km 圏 1 時間以内の 徒歩通学	バス等交通手段が 必要	計
小学校の状況	度数 %	64 13.6%	189 40.0%	219 46.4%	472 100%

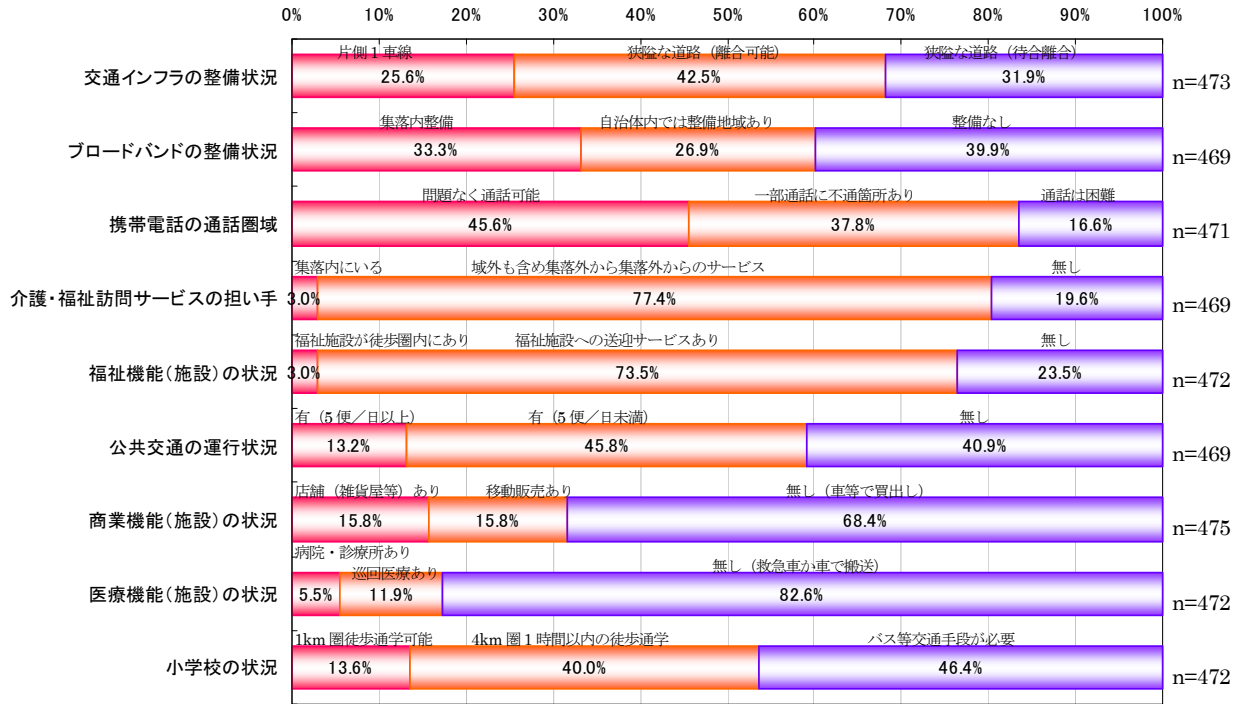
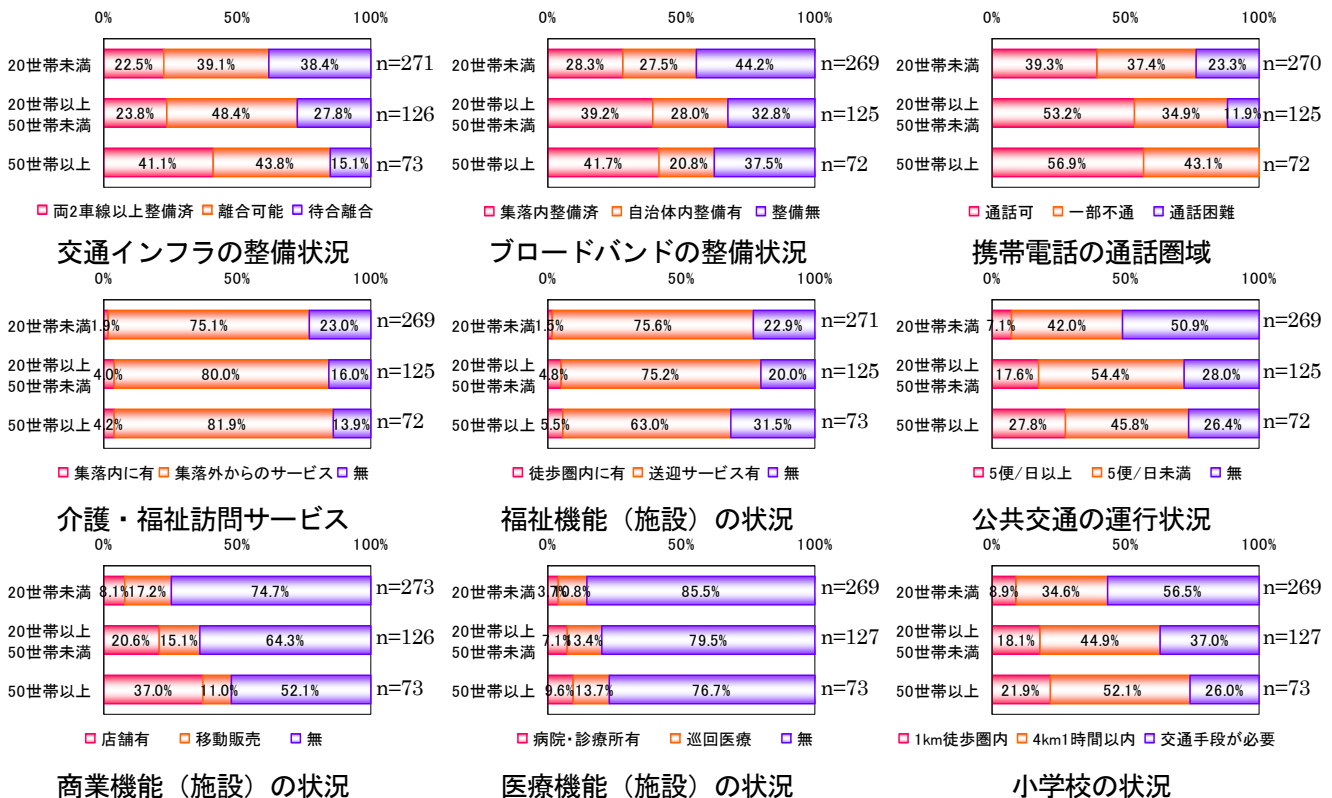


図 集落の生活サービス

○集落の生活サービスと世帯規模の関係

- ・「交通インフラの整備状況」は、世帯規模が小さくなるほど、「狭隘な道路（待合離合）」の割合が高くなっている。
- ・「ブロードバンドの整備状況」は、世帯規模が小さくなるほど、「集落内整備済」の割合が低くなっている。
- ・「携帯電話の通話圏域」は、世帯規模が小さくなるほど、「通話は困難」の割合が高くなっている。
- ・「介護・福祉訪問サービスの担い手」は、世帯規模が小さくなるほど、「集落内にいる」、「域外も含め集落外からのサービスあり」の割合が低くなっている。
- ・「福祉機能（施設）の状況」は、世帯規模が小さくなるほど、「福祉施設が徒歩圏内にあり」の割合が低くなっている。
- ・「公共交通の運行状況」は、世帯規模が小さくなるほど、「なし」の割合が高くなり、20世帯未満の集落では約5割を占める。
- ・「商業機能（施設）の状況」は、世帯規模が小さくなるほど、「なし（車等で買い出し）」の割合が高くなり、20世帯未満の集落では約7割を占める。
- ・「医療機能（施設）の状況」は、世帯規模が小さくなるほど、「無し（救急車か車で搬送）」の割合が高くなっている。
- ・「小学校の状況」は、世帯規模が小さくなるほど、「バス等の交通手段が必要」の割合が高くなっている。

<世帯規模>



3.3. 集落元気づくりへの協力体制(質問2)

○集落代表者の方々の集落元気づくりへの参加意向をふまえ、自治体としてどのような協力体制を構築することが可能であるかを把握するため、「対象集落の取り組み意欲が確認された場合は、職員の派遣等協力が可能である」、「取り組みを支援できる組織（住民団体・事業者等）を紹介することが可能である」、「対象集落の取り組み意欲やその他集落情報の共有化を図りたい」、「協力することは困難である」の4つの選択肢より該当する回答を複数選んでいただいた。

○集落元気づくりへの協力体制

- ・「集落対象の取り組み意欲が確認された場合は、職員の派遣等協力が可能である」との回答は、約3割を占める。
- ・「取り組みを支援できる組織（住民団体・事業者等）を紹介することが可能である」との回答は約1割を占める。
- ・「対象集落の取り組み意欲やその他集落情報の共有化を図りたい」との回答は、約6割を占める。
- ・2つの自治体が「協力することは困難である」と回答した。

表 集落元気づくりへの協力体制

質問項目	計	割合(%)
集落対象の取り組み意欲が確認された場合は、職員の派遣等協力が可能である	51	29.5%
取り組みを支援できる組織（住民団体・事業者等）を紹介することが可能である	21	12.1%
対象集落の取り組み意欲やその他集落情報の共有化を図りたい	99	57.2%
協力することは困難である	2	1.2%
計	173	100%

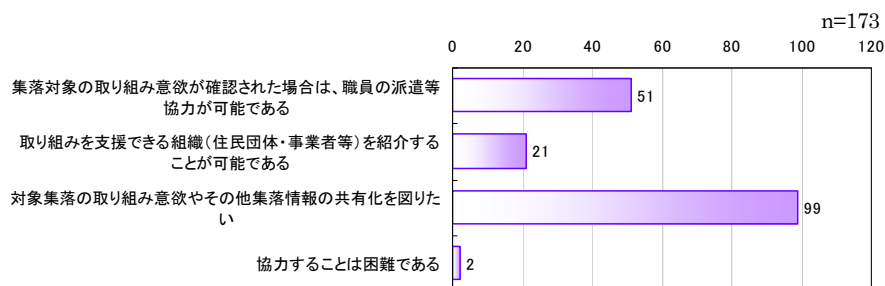


図 集落元気づくりへの協力体制

3.4. 集落での集落支援のアイデア(質問3)

- 自治体の集落元気づくりの取り組み内容、あるいは今後取り組むアイデアについて把握を行い、その傾向を分析することを目的とする。
- 記述していただいたアイデアを「独創性」(他の地域であまり取り組まれていないアイデア)、「実現性」(既の実施しているあるいは実現可能性の高いアイデア)、「汎用性(安心)」(集落の生活、安全機能向上に関するアイデア)、「汎用性(元気)」(集落の地域資源活用に関するアイデア)、「汎用性(外部交流)」(外部支援あるいは外部交流に関するアイデア)、「その他」(その他のアイデア、もしくはアイデア以外のこと)の6項目に分類した。

○集落での集落支援のアイデア

- ・「安心につながるアイデア」が20自治体あり、「元気につながるアイデア」が18自治体あった。

表 集落元気づくりのアイデア

質問分類項目	計
安心	20
元気	18
外部交流	22
計	60

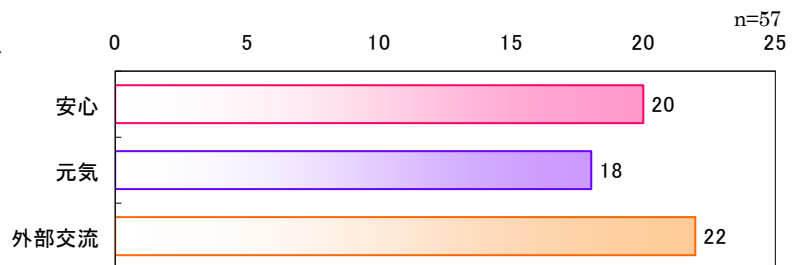


図 集落元気づくりのアイデア

3.5. 対象集落の再編の予定(質問4)

○対象集落において、集落の存続・再生を図るために再編（行政区の見直し含む）の予定があるかを目的とし、集落毎に「集落再編を既に実施している」、「実施する予定である」、「実施する予定はない」の3つの選択肢より選んでいただき、実施している、あるいは実施する予定があると回答した場合はその具体的な内容について把握した。

- ・対象集落において「集落再編を既に実施している集落」は14集落（3.1%）存在した。
- ・対象集落において「集落再編の予定がある集落」は73集落（16.1%）存在した。
- ・約8割の集落において「集落再編は予定されていない」

表 集落の再編

質問項目	計	割合(%)
集落再編を既に実施している	14	3.1%
実施する予定である	73	16.1%
実施する予定はない	367	80.8%
計	454	100%

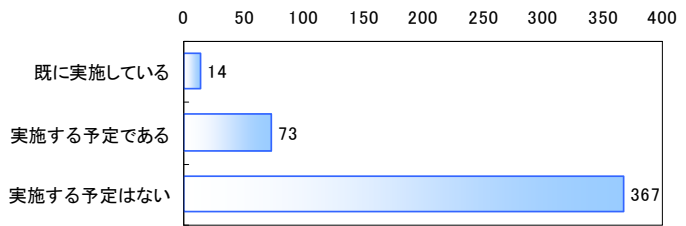
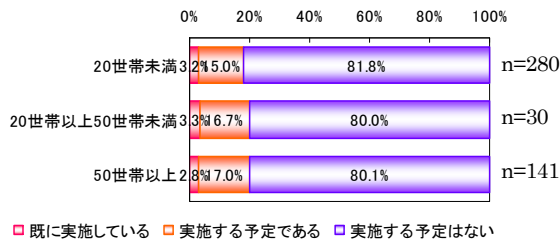


図 集落の再編 n=454

○対象集落の再編の予定と世帯規模の関係

- ・対象集落の再編予定と世帯規模の関係はみられなかった。

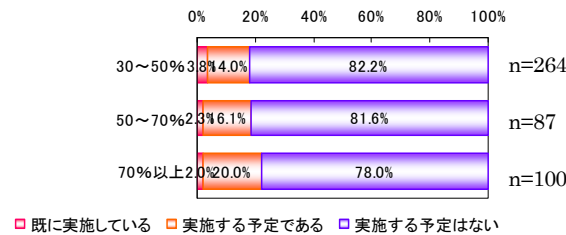
<世帯規模>



○対象集落の再編の予定と高齢化率の関係

- ・対象集落の再編予定と高齢化率の関係はみられなかった。

<高齢化率>



○対象集落の再編の予定と生活中心都市への時間距離の関係

- ・対象集落の再編予定と生活中心都市への時間距離の関係はみられなかった。

<生活中心都市への時間距離>

